

昭和十八年二月十二日(金曜日)午後一時三十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 東郷 實君

理事白川 久雄君 理事恒松於菟二君

理事成島 勇君 理事西川 貞一君

理事濱地 文平君 理事吉田 正君

青山 憲三君 池田正之輔君

石坂 繁君 小山倉之助君

岡田啓治郎君 越智太兵衛君

金子彦太郎君 小山邦太郎君

眞藤慎太郎君 杉山元治郎君

高田耘平君 平野力三君

森部 隆輔君

松原五百藏君

前川正一君

山口馬城次君

出席國務大臣左ノ如シ 農林大臣 井野 穎哉君

出席政府委員左ノ如シ 農林次官 石黒 武重君

農林省總務局長 重政 誠之君

農林省農政局長 井出 正孝君

農林省水產局長 寺田 省一君

農林省食品局長 田中 啓一君

農林書記官 藤田 巖君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

農業園體法案(政府提出)

水產業園體法案(政府提出)

○東郷委員長 會議ヲ開キマス、水產業園

體法案ヲ議題ト致シテ質疑ヲ行ヒマスガ、農林大臣ハ他ノ委員會ニ出席シテ居ラレル

ノデ見エラレマセヌ——鈴木重次君

○鈴木(重)委員 水產業園體法案ニ付テ御

伺ヒヲ申上ゲマス、郡漁業組合聯合會ハ水

產業園體ノ中カラ除カレルコトニ相成ツテ

居リマスルガ、此ノ場合ニ其ノ財産ハ如何

様ニ處分セラルルノデアリマスカ、此ノ點

ヲツ御尋ネ致シマス、次ニ、郡漁業組合

聯合會等ニ於テ特ニ許可ヲ得テ經營シ來ツ

テ居ル事業等ハ、既得權トシテ其ノ儘道府縣

水產會ガ之ヲ繼承シ得ルノデアリマスガ、

此ノ二點ニ付テ先づ御尋ネ致シマス

○寺田政府委員 漁業組合ノ郡聯合會ト申

シマスノハ、只今ノ所全國デ數モ極メテ少

イノデゴザイマス、此ノ團體統合ト並行シ

マシテ、現在其ノ大體ノ處置ニ付テ話ガ進

ンデ居リマス、現在マデ事實上進ンデ居リ

マス所ニ依リマスト、郡聯合會ト云フノハ、

府縣ノ聯合會ト、其ノ構成員デアル各單位

團體ト、相互ノ間ニ於テ然ルベク財產ノ授

受、或ハ處理ヲスルコトニナツテ居リマス、

中ニハ縣ノ聯合會ト合併ヲスルコトニ決議

ノ濟ンデ居ル所モゴザイマス、大體サウ云

フ風ニ致シマシテ、郡デ作ツテ居リマス聯

合會ハ、ソレトモ措置ヲ講ジテシマシテ居ル次第デゴザイマス、ソレカラ郡聯合會ノ事業ハ、是モ財產ト同ジヤウニ、府縣ノ聯合會ニ譲渡スルモノ、或ハ所ニ依リマシテハ其ノ構成員デアル單位組合ニ移讓スルモノ、ソレドヘアラウト思ヒマスガ、地方ニ依リマシテハ大體府縣ノ聯合會ト合併スルコトニ、決議モ濟ンデ居ルモノガ多イノデゴザイマス

網漁業、或ハ手繩網漁業等ニ對スル燃料油ノ現在ノ供給ハ非常ニ少イノデゴザイマス、又代用品ノ「タール」等ニ付キマシテモ、新タニ統制サレルコトニナリマシテ、此ノ方ノ供給モ亦思ヘシク參ラナイノデアリマス、ソレカラ「マシン」油亦同様デゴザイマス、其ノ漁獲方面ニ對スル影響ニ付キマシテハ、十分吾々ノ方モ心配ヲ致シテ、關係方面ト相談ヲ進メテ居ルノデゴザイマスケレドモ、

何分御承知ノ通リノ實情デアリマスノデ、此ノ增加等ニ付キマシテハ容易ニ目當ガ付カネ致シタイノデアリマスガ、長崎縣ヲ例ト致シタイト思ヒマスガ、現在機船、曳網、手繩網等ノ漁撈ノ狀況ヲ見マスト、油ノ需

要量ノ二割ガ配給サレテ居ルヤウデアリマス、當業者ハ此ノ油ノ配給ノ少イノニ對シテ、色々工夫ヲ凝ラシタ末、「タール」製品等ニ代用品ヲ求メマシテ操業シテ居ルヤウナ次第デアリマス更ニ「マシン」油ノ如キハ殆ど缺乏ノ極ニ達シテ居ルノデアリマス、色々工夫ヲ凝ラシタ末、「タール」製品ガ統制シテ居ル最中デゴザイマス

○鈴木(重)委員 只今ノ御答辯デハ將來沟ニ由々シキコトト相成ルカト存ジマスガ、此ノ上御尋ね致シマシテモ更ニ的確ナル御答辯ヲ得ルノ見込モアリマセヌノデ、此ノ程度ニ止メマス

○鈴木(重)委員 取ツテ見タイト思ヒマスガ、長崎縣ノ手繩網ニ例ヲ網ガ四百三十六統アル、サウシテ之ニ對スル漁具方面ノ資材ノ配給ハ、一割ニ該當スルモノデアリマス、此ノ漁具ニ付テ一年乃至二年位ノ耐久性シカ持タナイモノバカリ

デアリマスガ、若シ満足ニ是ガ配給セラレ

マスト、此ノ手繩網漁業ダケデモ四千万圓

居ルノデアリマスガ、現在ニ於テハ是ガ甚

付託議案  
(農業園體法案(政府提出))(第四五  
六號)  
(水產業園體法案(政府提出))(第四  
六號)

## 議案外一件委員會議錄(速記)第一回

ダ遺憾ナ狀態ニアリマスノデ、之ニ對スル配給ニ付テ格別ノ御配慮ヲ戴キタイト云フヤウナ情勢ニナツテ居リマス、若シ今日ノ儘デ是ガ進ムト致シマシタナラバ、忽チ此ノ四百三十六統ノ手繩網ハ休業狀態ニナル虞ガアリマスノデ、此ノ點ニ付テ御伺ヒラ致シタイノデアリマス。

更ニ續ケテ御伺ヒ致シタイト思ヒマスコトヘ、油ニ致シマシテモ、漁具ニ致シマントモ、現在ノ配給ノ情勢ヲ考ヘテ見マスルト必ズシモ是ガ各府縣トモ同ジ率ヲ以て配給セラレテ居ルト云フ狀態デモナササウデアリマス、是ハ去ル一月ニ長崎縣ニ於キマシテ、數縣ノ漁業者代表ノ集合ヲ求メマシテ、其ノ實情ヲ聽取シタ結果ニ依ルノデアリマスガ、此ノ情勢不行キマスト、品拂底ノ場合ニ益々窮況ニ陥ルノデハナイカ、殊ニ斯クノ如キ物資不足ノ場合ニ於テ、油ノ如キハ府縣ニ依リマシテハ、此ノ事業ニ密接ナ關係アル經濟部等ハ其ノ配給事務ニ當ラズシテ、警察部ガ之ヲ受持ツテ居ルト云フヤウナ變態的ナモノガアリマシテ、甚ダ配給事業ニ付テハ遺憾ナ點ガ多イノデアリマス、此ノ際新團體ガ統合セラレマシタノラ機會ニ、中央水產會デ一元的ニ之ヲ配給セラルコトナリマスナラバ、全國的ニ其ノ業態ヲ能ク詳細ニ承知シテ、能率ニ應ジテ圓滑ニ是ガ配給ヲ得セシメラレルナラバ、此ノ中央水產會ヲ通ジテノ一元的配給ヲヤラレル所ノ方法ガ、此ノ際講ゼラレテ居ルカドウカ、此ノカト思フノデアリマスガ、此ノ中央水產會獲ノ能率ヲ增進出来ルカ、ト云フ點カラ出點ヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス。

○寺田政府委員 漁具ニ付テノ御話デアリマスガ、漁具ノ原料モ亦非常ニ不足ヲ致シ

テ居リマシテ、其ノ補給モ國內ノ生產ニ依ツテ補給シ得ルト云フ見込ガ立タナイノデアリマス、然ラバ國外カラ調達ヲシテハドウカト云フコトデ、是モ工夫ヲ致シテ居リマスガ、中々思フヤウニ調達出來マセヌ、ソコデ代用品ニ付テハ何カナイカ、例ヘテ申セバ生絲乃至綢製品等モ代用ニ使ツカラドウカト云フコトデ、此ノ方モ考ヘテ居リマスケレドモ、價格デアリマストカ、或ハ製造ノ關係等カラ、中々思フヤウニ必要ナ分量ヲ充シ得ル狀態ニハナラナイノデゴザイマス、ソレデ此ノ方モ今折角、何トカ漁獲ニ影響ヲ及ボサナイヤウニ致シタイト云フコトデ、工夫ヲ致シテ居ル所デゴザイマス、唯ココデ申上げテ置キタイトコトヘ、斯ウ云フヤウニ漁業用ノ資材ハ不足ハシテ居リマスケレドモ、漁業用資材ガ不足スル程度ハ、漁獲ニ影響シテ居リマセヌ、是ハ一程ハ、漁獲ニ影響シテ居ラレル方々ノ時局ニ對スル認識カラ、十分活動シテ居ラル結果デアラウト、私共平生敬意ヲ拂ツテ居ル次第デアリマス。

ソレカラ次ニ御尋ネノ配給比率ニ付テ、各府縣ニ依ツテ割合ガ違フト云フ點ヲ御指摘ニナツタノデアリマスガ、是モ其ノ品物ニ付テ、或ハ漁業ノ種類ニ依リマシテ、各府縣々々々重點ノ置キ方ガ違フト云フヤウナコトカラ、漁業ノ種類ニ依ツテハ、或ノ業態ヲ能ク詳細ニ承知シテ、能率ニ應ジテ圓滑ニ是ガ配給ヲ得セシメラレルナラバ、此ノ中央水產會獲ノ能率ヲ増進出来ルカ、ト云フ點カラ出點ヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス。

○鈴木(重)委員 只今御答辯ヲ得タノデアリマスガ、資材ノ配給問題ハ「ストック」品ハ漸次絶エマス、更ニ石油ノ專賣法ガ行ハレ、「クール」製品ガ統制サレル、斯様ナコトニナツテ參リマスト、只今御答辯ノ筋云フモノハソレ程減少シテ居ナイ、漁民ノ御聽取ニナツテ、是ガ整備ヲ御圖リニナラナケレバ、大都市ニ向ツテ移出スル魚類ノ搬出ハ非常ニ困難ナ状態ニアリマス、更ニ長崎縣ニ於キマシテ、郡漁業組合聯合會ニ市街地ニ於ケル鮮魚ノ小賣店ノ許可ヲ許シテ居ルヤウデアリマス、此ノ成績ハ非常ニ良好デアリマシテ、兎角小賣商ガ情實販賣ヲ致スノニ反シテ、頗ル公平デ、公定價格内デ販賣ガ出來テ居ルト云フヤウナデアリマス、願クバ左様ナル點ニ期待ヲ掛ケ

ス、更ニ一元的配給ニ付テハ、個別的ニソレバ相應補ヒガ付イテ居ルト云フコトデ、是モ工夫ヲ致シテ居リマスガ、中々思フヤウニ調達出來マセヌ、ソコデ代用品ニ付テハ何カナイカ、例ヘテ申セバ生絲乃至綢製品等モ代用ニ使ツカラドウカト云フコトヲ私ハ想テ居リマスケレドモ、價格デアリマストカ、或ハ製造ノ關係等カラ、中々思フヤウニ必要ナ分量ヲ充シ得ル狀態ニハナラナイノデゴザイマス、ソレデ此ノ方モ今折角、何トカ漁獲ニ影響ヲ及ボサナイヤウニ致シタイト云フコトデ、工夫ヲ致シテ居ル所デゴザイマス、唯ココデ申上げテ置キタイトコトヘ、斯ウ云フヤウニ漁業用ノ資材ノ一元配給方出来レバ、ソレハ最モ望マシイ所デアラウカト私共モ考ヘマス、併シ現在ノ情勢ノ下ニ於テハ、理論モ大切デアリマスケレドモ、又實情ガ餘リ懸離レマスト、却テ混乱ヲ來シテハ困ルト云フ點モ懸念致シテ居ルノデゴザイマス、隨ヒマシテ此ノ團體法施行ヲ見マス既ニ於テハ、實情モ能ク勘案シテ大ナル支障ヲ來サヌヤウニ、又中央水產會ト致シマシテモ、其ノ職責遂行上遺憾ノナイヤウニ考ヘテ參リタイト存ジテ居リマス。

○鈴木(重)委員 只今御答辯ヲ得タノデアリマスガ、資材ノ配給問題ハ「ストック」品ハ漸次絶エマス、更ニ石油ノ專賣法ガ行ハレ、「クール」製品ガ統制サレル、斯様ナコトニナツテ參リマスト、只今御答辯ノ筋云フモノハソレ程減少シテ居ナイ、漁民ノ御聽取ニナツテ、是ガ整備ヲ御圖リニナラナケレバ、大都市ニ向ツテ移出スル魚類ノ搬出ハ非常ニ困難ナ状態ニアリマス、更ニ長崎縣ニ於キマシテ、郡漁業組合聯合會ニ市街地ニ於ケル鮮魚ノ小賣店ノ許可ヲ許シテ居ルヤウデアリマス、此ノ成績ハ非常ニ良好デアリマシテ、兎角小賣商ガ情實販賣ヲ致スノニ反シテ、頗ル公平デ、公定價格内デ販賣ガ出來テ居ルト云フヤウナデアリマス、願クバ左様ナル點ニ期待ヲ掛ケ

リマス、現下ノ鮮魚ノ配給ガ非常ニ不圓滑ナル時期ニ於キマシテ、成ベク全國各地ニ斯様ナル生産者ノ團體ガ、直接消費者ニ配給スルノ機關ヲ、既設ノ小賣商等ト併セ開店スルノ途ヲ開カレテハドウカ、此ノ點ヲ御尋ネ致シタインデアリマス、以上二點ニ付テ御所見ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○寺田政府委員 只今御尋ネノゴザイマシタ第一點、即チ長崎カラ京阪神ヘ送ラレマス場合ノ價格ノ問題デゴザイマスガ、此ノ價格ノ問題ハ非常ニ難カシイコトハ御承知ノ通リデゴザイマス、所デ此ノ價格ヲ考ヘマス

場合ニハ、大體從來ノ實績ニ依リマシテ、其ノ生産高ガドレ程アルカ、隨テ其ノ生

産費ガドウ云フ風ニナルカト云フコトモ、併セテ考ヘナケレバナラナイモノダト思ハ

レマス、隨ヒマシテ長崎方面デゴザイマス

トカ、サウ云フ特ニ漁業ノ生産高ノ多イ所

ノ價格ハ、中央部へ移出サレマス場合ニ於

キマシテモ、其ノ點ヲ考慮ニ入レナケレバナラ

ノイデハナイカト思ハレル次第デアリマス、隨

ヒマシテ其ノ實情ヲ能ク勘案シナケレバナ

ラナイノデゴザイマスガ、此ノ實情ヲ勘案ス

ルコトニ付キマシテモ、是亦御承知ノ通り

漁業ハ其ノ年ニ依リマシテ、其ノ物ニ依リ

マシテ、非常ニ變動ガ著シノデゴザイマ

ス、隨ヒマシテ十分實情ヲ考ヘテ値段ヲ決

メルノデアリマスケレドモ、其ノ時々ニ應

ジマンテ色々ト變動ノ起リマス場合ニハ、

一時サウ云フ工合ノ惡イ場合モナイトハ申

セマセヌ、併シナガラ全體ヲ通ジテ考ヘテ參

リマスレバ、ソニ何等カノ合理的ナ基準ガ立ツテ居ルト云フヤウニ致シタイト云フ考

ヘデ進ンデ居ルノデゴザイマス、尙ホ實情ノ變動等ニ付キマシテハ、私共ノ方モ常ニ

付スカラ、是正アランコトヲ希望致シマス

十分注意モ致シテ居リマス、必ズシモ官吏

尙ホ第二ノ水產業團體ニ小賣店ヲ開クノ途

ヲ御開キ願ヒタイト云フ希望ニ付キマシテ

ハ、是一本デ御願ヒシタイト云フコトハ希望致

シマセヌ、勿論現在ヤツテ居ル所ノ小賣商ノ如

キ、其ノ既得權ヲ尊重スベキコトハ申スマデ

モアリマセヌガ、是ト併セ行フデナケレバ、

シタガ、是モ若シ總テノモノガ初メテ行ハ

レマス場合ニ於キマシテハ、理論的ニモ、

又實際的ニモ、御話ノヤウナ行キ方ガ一ツ

ノ良イ方法デアルコトハ私共ニモ考ヘラレ

ルノデゴザイマス、併シ從來配給ニ携ヘツ

テ居ラレル關係業者ノ方々ヲ、此ノ際全部

改メテ、新タナ方法デ行クト云フコトニ致

シマスコトハ、色々ト此ノ間ニ混亂ヲ生ジ

マシタリ、或ハ矛盾ヲ生ジタルコトハ

避ケナケレバナラナイト云フ考ヘ方デ參ツ

テ居ル次第デゴザイマス、隨ヒマシテ今後

共サウ云フ配給ガ圓滑ニ行クヤウニ十分心

掛ケテ參リタイト思ヒマスガ、其ノ方法ハ

單一ノ方法デ限定シテ進ムコトガ宜イカ惡

イカ、色々マダ研究ノ餘地ガアラウト思ツ

テ居リマス

○鈴木(重)委員 第一ノ移出ニ對スル問題ニ付テ、漁業ノ價格ハ云々ト云フ御答辯デアリマシタガ、段々公定價格等ニ於テ定マテ居リマスノデ、運搬費其ノ他ノ方面、諸掛等ニ於テ經費ヲ要シマスル爲ニ、三十八錢ノ缺損ヲ生ジテ居ルノデアリマスカラ、是ハ其ノ時ノ情勢ト云フ意味デアリマス

スカラ、是正アランコトヲ希望致シマス

○寺田政府委員 此ノ配給ノ關係ノ改善ト

云フコトハ、非常ニ難カシイ問題デアル

コトハ御承知ノ通リデゴザイマス、併シ

イノデアリマス

○鈴木(重)委員 此ノ配給ノ關係ノ改善ト云フコトハ、非常ニ難カシイ問題デアルコトハ御承知ノ通リデゴザイマス、併シイノデアリマス

ナガラ難カシイカラト云ツテ改善ヲシナ

譯ニハ行カナイト思ヒマスノデ、今折角

色々ト研究ヲ致シテ居ル所デゴザイマス、

コトハ御氣持アリヤ否ヤヲ更ニ御伺ヒシタ

ウナ感ジガ致スノデアリマス、此ノ中間ニ

數多ノ勞働者ヲ使役シテ、非常ニ苦心ヲ致

引キマスト、加工業者ノ利益ハ二圓六十錢

ニナリマス、漁船、漁網其ノ他漁具、燃料、

モノヲ合シマシテ一圓以内ニ當ル、之ヲ差

シマセヌ、勿論現在ヤツテ居ル所ノ小賣商ノ如

キ、其ノ既得權ヲ尊重スベキコトハ申スマデ

モアリマセヌガ、是ト併セ行フデナケレバ、

シタガ、是モ若シ總テノモノガ初メテ行ハ

レマス場合ニ於キマシテハ、理論的ニモ、

又實際的ニモ、御話ノヤウナ行キ方ガ一ツ

ノ良イ方法デアルコトハ私共ニモ考ヘラレ

ルノデゴザイマス、併シ從來配給ニ携ヘツ

テ居ラレル關係業者ノ方々ヲ、此ノ際全部

改メテ、新タナ方法デ行クト云フコトニ致

シマスコトハ、色々ト此ノ間ニ混亂ヲ生ジ

マシタリ、或ハ矛盾ヲ生ジタルコトハ

避ケナケレバナラナイト云フ考ヘ方デ參ツ

テ居ル次第デゴザイマス、隨ヒマシテ今後

共サウ云フ配給ガ圓滑ニ行クヤウニ十分心

掛ケテ參リタイト思ヒマスガ、其ノ方法ハ

單一ノ方法デ限定シテ進ムコトガ宜イカ惡

イカ、色々マダ研究ノ餘地ガアラウト思ツ

テ居リマス

イノデアリマスルカラ、實際ニ於テハ五圓五十錢ハ六圓ニモ達シマスガ、兎ニ角最低五圓五十錢ガ確實ナ所デアリマス、左様ニ致給スルノ機關ヲ、既設ノ小賣商等ト併セ開店スルノ途ヲ開カレテハドウカ、此ノ點ヲ御尋ネ致シタインデアリマス、以上二點ニ付テ御所見ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○寺田政府委員 只今御尋ネノゴザイマシタ第一點、即チ長崎カラ京阪神ヘ送ラレマス場合ノ價格ノ問題デゴザイマスガ、此ノ價格ヲ考ヘマス

通リデゴザイマス、所デ此ノ價格ヲ考ヘマス

場合ニハ、大體從來ノ實績ニ依リマシテ、其ノ生産高ガドレ程アルカ、隨テ其ノ生

産費ガドウ云フ風ニナルカト云フコトモ、併セテ考ヘナケレバナラナイモノダト思ハ

レマス、隨ヒマシテ長崎方面デゴザイマス

トカ、サウ云フ特ニ漁業ノ生産高ノ多イ所

ノ價格ハ、中央部へ移出サレマス場合ニ於

キマシテモ、其ノ點ヲ考慮ニ入レナケレバナラ

ノイデハナイカト思ハレル次第デアリマス、隨

ヒマシテ其ノ實情ヲ能ク勘案シナケレバナ

ラナイノデゴザイマスガ、此ノ實情ヲ勘案ス

ルコトニ付キマシテモ、是亦御承知ノ通り

漁業ハ其ノ年ニ依リマシテ、其ノ物ニ依リ

マシテ、非常ニ變動ガ著シノデゴザイマ

ス、隨ヒマシテ十分實情ヲ考ヘテ値段ヲ決

メルノデアリマスケレドモ、其ノ時々ニ應

ジマンテ色々ト變動ノ起リマス場合ニハ、

一時サウ云フ工合ノ惡イ場合モナイトハ申

セマセヌ、併シナガラ全體ヲ通ジテ考ヘテ參

リマスレバ、ソニ何等カノ合理的ナ基準ガ立ツテ居ルト云フヤウニ致シタイト云フ考

ヘデ進ンデ居ルノデゴザイマス、尙ホ實情ノ變動等ニ付キマシテハ、私共ノ方モ常ニ

付スカラ、是正アランコトヲ希望致シマス

○鈴木(重)委員 次ニ價格ニ付テ御尋ネ致

セマセヌ、長崎縣ニ於ケル——是ハ全國的デ

アリマセウガ、鰯ノ鮮魚ノ價格ガ一圓九十

錢、之ヲ加工致シマスルト五圓五十錢デア

ル、實ハ漁業者ヨリ加工業者ニ賣却致シマ

モ現在ノ公定價格ハ中間手數料ニ餘リ重キ

ケラレマシタノハ、戰時下突發のニ早急ノ間ニ、最終消費價格ヲ公定價格トシテ先ヅ定期必要ニ迫ラレタ結果、斯様ナモノガ生ジテ參ツタノデアラウト思フノデアリマスルガ、今日ニ於テ一應モウ物價ハ安定シテ、此ノ際斯様ナ物價ノ訂正ヲオヤリニナルコトヘ、適當ナ時期デアルト私ハ信ズルノデアリマス、此ノ中間手數料ト云フモノガ斯様ニ多ク與ヘラレルト云フコトニナリマスト、鮮魚ノ移出ト云フモノニ非常ナ支障ヲ來ス、大體漁業者ノ生產者ト致シマシテハ鮮魚ヲ賣捌クコトヲ希望シ、又消費者ニ於テモ鮮魚ヲ購メルコトヲ望ムノデアリマス、ソコデ若シ此ノ鮮魚ノ價格ト、加工シタル時ノ其ノ價格トノ間ニ於テ適當ナル均衡ヲ得マスナラバ、鮮魚ノ搬出ト云フモノハ非常ニ圓滑ニナツテ來ルノデヤナイカ、斯様ナ感ジヲ持ツノデアリマスガ、現在ノ如キ情勢デ行キマスト、一ニモ加工、二ニモ加工、總テ加工々々ト云フコトニ相成ツテ參リマスルノデ、非常ニ鮮魚ノ移出ト云フモノハ不圓滑ニ相成ル、之ニ對スル所ノ公定價格御訂正ノ意思アリヤ否ヤ、此ノ點ヲ先づ御尋ネ致シマス

フコトヲ、慥カ既ニ通牒ラ出シテ居ル筈デアリマス、隨ヒマシテ今後ノモノニ付キマシテハ、其處ノ所ガ調整ガ取レテ行クコトト考ヘルノデアリマス、ソレカラ加工セラレタル物ト生ノ物トノ問題ニ付キマシテヘ、私共ト致シマシテハ只今御述べニナリマシタヤウニ、成ルベク鮮魚デ出スト云フ方針ノ下ニ、加工ノ原料トナリマス所ノ鮮魚ヘ、鮮魚デ市場ニ搬出ヲ致シマス物トノ間ニ、若干ノ差等ヲ設ケテ居ルノデアリマス、即チ原料ニナリマス物ハ幾ラカ安目ニ公定價格ヲ決定致シテ居リマス、只今ノ鰐ノ例ニ於キマシテモ、加工ニ廻リマスル生鰐ノ値段ヲ高ク致シマスレバ、生鰐ノ出廻リト云フモノハ少クナル、斯ウ云フ見地ニ於キマシテ、從來公定價格ヲ設定致シテ居ツタノデアリマスガ、長崎縣ニ於キマシテハ只今御述ベノヤウナ事情ガアリマシタノデ長崎縣サウ云フヤウナ特例ノアル地方ニ限リマシテハ、臨時ノ措置ヲ講ズルヤウニ、從來トモ致シテ居ルノデアリマス、サウ云フ風ナ手配ヲ致シテ居リマス

唯私へ其ノ三分デモ行ケルト云フ確信ヲ持  
ツ意見ニ對シマシテ、此ノ中間手數料ノ六  
分ハ尙ホマダ過分ニ過ギルノ感ガ致シマス  
ルノデ、中間手數料ノ整理ノ爲ニ尙ホ餘地  
アル所ノ例ニ之ヲ引イタ次第アリマス  
尙ホ終リニ、私農業團體ノ場合ニ於テ質  
問スル機會ヲ得マセヌデシタノデ、只今ノ  
價格ハ要スルニ農業團體方面ニ取リマシテ  
モ、同ジク適用サレル所ノ趣旨カノヤウニ  
承知致シテ居リマス、蘭ノ價格ニ致シマシ  
テモ、木材ノ價格ニ致シマシテモ、今日ニ  
於テハ生産價格が非常ニ安ク見ラレマシテ  
中間手數料ノミガ徒ラニ高價ニ相成ツテ居  
リマス、左様ナ關係ヨリ致シマシテ、茲ニ  
農業團體ノ方面ニ關シマシテ、多數ノ議員  
諸君ノ質問ニ依リマシテ、政府ガ凡ニル角  
度ヨリ農村ニ寄セラレタル政策ヤ施設計畫  
等ヲ承知致シマシテ、洵ニ敬意ヲ表スル次  
第デアリマスルケレドモ、尙ホ一、二ノ觀點  
ニ付キマシテ所見ヲ述べテ御意見ヲ拜聴シ  
タイト存ジマス、私ハ當初此ノ團體法案ニ  
大ナル期待ヲ持ツテ居タノデアリマスガ、  
漸次掘下ゲテ質問ガ行ヘレルニ伴ヒ、寧ロ其  
ノ内容ガ甚ダ消極的デアルノニ、淋シサト  
遺憾ニ堪ズル者デアリマス、農業團體長ノ  
地位ガ如何ニモ弱體トテリサウデアリ、現  
在産業組合ノ事業ガデリ貧的ニ壓縮セラレ  
ニ慨嘆ニ堪ヘナイ次第アリマス、是ガ幸  
ニ杞憂ニ終レバ洵ニ仕合セニ存ズルノデア  
リマスガ、皇國農村ノ建設ヤ農民精神昂揚  
等ハ、皆美ハシキ指導目標デアリマス、併  
シ概括シテ農業團體ニハ、利益ノ取得面ニ讓

アリマス、今日ニ於ケル農民ノ經濟力へ大凡如何ナルモノデアルカ、其ノ子弟ノ一人ニ中等教育ヲ施セバ、家産ハ忽チ傾イテ來ルノデアリマス、農村ガ何モ下級勞働者ノ培養地トシテ終ラネバナラヌ道理ハナイノデアリマス、農民ゾ子弟全部ガ必ズシモ、父祖ノ家業ニノミ止ラナケレバナラナイト云フ譯デモナイ、否ニ一男三男等ハ轉出セザレバ自作農タルノ餘地モナイノデアリマス、今日農村ニ最モ缺ケテ居ルノハ技術ノ貧困デアリマス、之ヲ修得致シマシタナラバ、其ノ業ニ趣味ヲ持チ、經濟的ニモ打開ノ途方求メラレ、家業ニ對スル執着心モ増強シ、增產奉公ノ務メモ全ウシ得ルノデアリマス、彼等ハ教育ヲ受クルニ地理的ニ極メテ不便デアリ、隨ニ比較的多クノ經費ヲ要シマス、シ餘祿ヲ與ヘ、物價ヲ生産本位ニ是正シテ、農民ノ收入ヲ増加シ、生産的ニ經濟的ニ堅實ナル農村ノ建設ヲ致サレンコトヲ切望シテ已マナインデアリマス、現在ノ農業生産物ニ對スル所ノ物價ハ、最終生産價格ヲ本位トシ、次ニ手數料ガ考慮サレ、更ニ最後ニ生産價格ガ決定サレテ居ルヤウデアリマスルガ、之ニ致シマシテモ常ニ生産價格ノ部面ニ向ツテ、色々ノ經費ノ割込ガ入ツテ來ルノデアリマス、仍テ先づ生産價格ヲ定メテ消費價格ヲ考ヘ、サウシテ其ノ中間手數料ヲ考慮シテ、其ノ按配ニ依ツテ今日

○重政政府委員 農業團體法案ガ、何カ現在産業組合其ノ他ノ團體ニ於テヤツテ居リマスル所ノ事業ヲ壓縮シテ居ルカノヤウナ御話デアリマシタガ、サウ云フコトハ絶對ニアリマセヌ、是ハ屢々本委員會ニ於テ御答辯申上ゲマシタヤウニ、全然サウ云フコトハナイノデアリマス、寧ロ其ノ内容ヲ擴充セラレタル部分ガアルノデアリマス、是ハ仔細ニ法案ニ付テ御検討願ヒマスト、サウ云フコトガ御了解ガ行クコトト考ヘルノデアリマス

尙ホ公定價格形成ノヤリ方ニ付テノ御質問デアリマシタガ、是ハ申上ゲルマデモナク、只今御述ベニナリマシタヤウニ、先づ生産費ノ調査ヲ致シマシテ、生産者價格ト云フモノヲ決定ヲ致シ、ソレカラ消費者ノ價格ヲ考ヘマシテ、中間ノ配給經費ト云フモノハ出來得ル限リ壓縮ヲ致シテ參ツテ居ルノデアリマス、此ノ中間經費ノ問題ニ付キマシテハ、過般來本委員會ニ於キマシテモ、色々御指摘ガアツクノデアリマスルガ、私共ト致シマシテハ勿論自由取引時代ト違ヒマシテ、配給統制ヲ致ス場合ニ於ケル中間配給機關ノ手數料ト云フモノハ、或ハ金融的ニ貸倒レ等ガナイトカ、或ハ物ニ依リマシテハ「ストック」ヲ致ス必要ノナイ物モアリマスノデ、自由經濟時代ノヤウナ金利、倉敷ト云フヤウナモノモ掛ラスト云フヤウナコトハ、十分分配給經費ヲ考ヘマス際ニ、私共檢討ヲ致シテ居ルノデアリマス、隨ヒ思アリヤ否ヤ、此ノ點ニ付テ御伺ヒ致シマス

マシテ漸次此ノ中間ノ經費ト云フモノハ、  
壓縮ニ壓縮ヲ重ネテ參ツテ居ルト云フノガ  
現狀デアリマシテ、只今御述ベニナリマシ  
タ通り、先づ第一ニ生産者價格ト云フモノ  
ヲ檢討致シ、ソレカラ消費者價格ヲ考ヘマ  
ス際ニ、配給經費ヲ只今申述べマシタヤウ  
ナ角度ニ於テ之ヲ壓縮シテ考ヘテ、公定價  
格ヲ決定ヲ致シテ居ルト云フノガ現狀デア  
リマス。

○鈴木(重)委員 御答辯ノ通リデアリマスト  
甚ダ結構デアリマシテ、御尋ネスル必要モ  
ナイノデアリマスガ、是ハ最近調べテ貰ツ  
タノデアリマスガ、養蠶ノ場合、反物一反  
ニ對スル繭ガ七百六十枚、其ノ價格ガ六圓  
三錢、之ヲ絲ニシテ九圓二十錢、更ニ織元  
ノ所デ二十一圓三十二錢トナリマス、此ノ  
場合繭販ガ四十九圓二錢ヲ取ツテ居ル、卸  
屋ニ行ツテ二十三圓二十八錢トナツテ、其  
ノ卸屋ノ利益ガ一圓九十五錢ヲ取ル、小賣  
商ニ行ツテ二十八圓十三錢トナリ、小賣  
商ノ利益ガ四圓八十五錢トナリマス、斯ウ  
云フヤウナ數字ニ相成ツテ居リマス、養蠶  
家ガ桑ヲ摘ンデ蠶ヲ養フテ、其ノ間ニハ相  
當ノ危險サヘモアルノデアリマスガ、左様  
ナ一切ヲ考ヘテ六圓三錢デアリマス、ソレ  
ニ小賣商ハ座ナガラニシテ之ヲ賣ルノニ  
四圓八十五錢ノ純收入ヲ得ルト云フニ至リ  
マシテハ、六圓三錢ト四圓八十五錢トノ開  
キト云フモノハ何程デゴザイマス、而モ小  
賣商ノハ純收益デアリマス、斯様ナ狀態  
ヲ調べマスト、下ウモ今御答辯ノ筋ノヤウ  
ニバカリ受取レマセヌヤウナ感ジガスルノ  
デアリマス、更ニ木材ノ點カラ考ヘテ見マ  
スルト、最近ノ木材ノ中間手數料ハ、其ノ

微収スルコトニナツテ居リマス、之ヲ逆ニ  
生産者側ノ方面ニ於ケル所ノ立木價格ト云  
モノハ、從來ノ賣却價格ノ五割以下ニ値  
ガ付ケラレテ居ルヤウデアリマス、甚ダシ  
キハ四割ヲ割ルコトサヘモアリマス、斯ク  
ノ如キ狀態デハ到底此ノ造船材ヲ出セト云  
ツテモ、炭坑ノ坑木ヲ出セト云ツテモ、是  
デハ到底生産者ハ之ヲ賣却スルノ勇氣ガ出  
ナイノニアリマス、現在北九州ニ於キマシ  
テハ、炭坑ノ坑木拂底ノ爲ニ增産ニ支障ヲ  
來シテ居ル狀態デアリマスガ、速カニ斯様  
ナ價格ニ付テ——立木價格ニ今少シク確實  
ニ、而モ斯クノ如キ低廉ナル價格ニ相成ラ  
ヌヤウニ、確實性ヲ持タセル方法ヲ御考慮  
ニナラレテ、サウシテ是ガ對策ヲ立テルノ  
デナケレバ、今日ノ情勢デハ木材ノ供出ハ  
中々容易ナラザルモノト思フノデアリマス、  
兎ニ角此ノ場合ニ於テ、議論ハ抜キニシマ  
シテ、斯様ナ實情ヲ御配慮ノ上、價格ノ御  
訂正ヲ切望ニ堪ヘナイ所デアリマス、以上  
希望ヲ述ベマシテ私ノ質問ヲ終リマス  
○重政政府委員 公定價格ヲ設定致シマス  
際ニ色々ノ事情ガアリマシテ、生産者價格  
ト云フモノヲ公定價格上決メ得ル場合ト、  
只今御述ベニナリマシタ木材ノ價格等ニ付  
ギマシテモ、是ハソレゝゝ多數ノ各段階ニ  
ル譯デゴザイマス、ソコデ色々面倒ナ問題  
於ケル専門家ト十分ニ協議ヲ致シテ決定ヲ  
シテ居ルヤウナ譯デアリマス、併シ御承知ノ  
ヤウニ木材等ニナリマスト、山カラ伐リ出  
シテ來ル間ノ經費ト云フモノガ、所ニ依ツ  
テ非常ニ違フ關係上、地方的ニ見レバ只今

御述ベニナリマシタヤウナ色々ナ問題ガアルト考ヘルノデアリマス、木材ガ現在ノ段階ニ於キマシテハ、殆ド鐵鋼ニモ類スペキ極メテ重要ナル軍需資材デアルト云フ觀點カラ致シマシテ、先般モ奥地カラ木材ヲ搬出スルモノニ付キマシテハ、政府ガ若干ノ負擔ヲ致スコトニ豫算モ決定ヲ見タ譯ニアリマス、ソレカラ又只今御述ベニナリマシタヤウナ船材ニ付キマシテハ、特ニ是ハ公定價格ノ改訂ヲ先般致シタノデアリマス、枕木等ニ付キマシテモ、サウ云フヤウナ事情ガアリマシタ場合ハ、直チニ價格ノ調整ヲ致スト云フヤウナ方法ヲ執ツテ居ルノデアリマシテ、御述ベニナリマシタヤウニ、其ノ間ニ色々權衡ヲ失スルヤウナ場合ガアリマシタナラバ、是ハ十分検討致シマシテ、調整ヲ致スコトニ從來致シテ居ルノデアリマス、今後ニ於キマシテモ出來ルダケ速カニ調査ヲ致シマシテ、實情ニ合フヤウナ公定價格ヲ調整シテ行キタイ、斯様ニ考ヘマス。

居ラレルノカ、マダ少シ期間ガ残ツテ居リ  
マスガ、若シ昨年度ノガハツキシリシナケレ  
バ一昨年度ノデモ宜シイ、政府ノ立テマシ  
タ計畫上ノ數字ト實際上ノ數字、ソレカラ  
事變前五箇年間位ノ平均ノ數字、是ト並  
テドノ點殖エテ居ルカ、減ツテ居ルカ、ソ  
レニ對シテ本年度ヘドノ程度ノ計畫生産ヲ  
目標ニシテ居ルカ、特ニ本年ノ計畫生産ヲ  
決メマス場合ニ、遠洋漁業モアラウシ、沿  
岸漁業モアラウシ、内水面ノ漁業モアルト  
思ヒマスガ、各ニ對シテドノ割合テ計  
畫ヲシテ居ルカ、之ヲ一ツハツキリ御示シ  
ヲ願ツテ、計畫性ガ比較的少イ水產方面ニ  
於テモ、計畫性ヲ以テ私ハオヤリヲ願ハナ  
ケレバナラナイト思フノデアリマシテ、特  
ニ此ノ數字ヲ一ツ御示シヲ願ヒタイト思フ  
ノデアリマス、昨年ノ如キハ局長ト大臣ノ  
數字ガ違ツテ居ツタヤウナ點ガアルノデア  
リマス、私ハドウカ是等ヲ明瞭ニシテ置イ  
テ戴クコトヲ特ニ希望致シマシテ、今申上  
ゲマシタ數字ノ御示シヲ願ヒタイト思ヒマ  
ス

的生産ヲ行フト云フコトモ、一昨年ノ後半期位カラ始メタコトデゴザイマス、即チ大東亞戦争勃發直前カラ始メタノデゴザイマス、ソレマデハ大體前年ノ實績ヲ目標ニスルヤウナ漠然タル目標デ進ンデ居ツタノデゴザイマス、所ガ一昨年後半カラ計畫ヲ立てタノデアリマスケレドモ、一昨年竝ニ昨年ニ於キマシテハ、一年間ヲ通ズル計畫的ナ生産ノ目標ト云フモノガ一定致シテ居リマセヌ、ソレハ生産條件ノ變動ニ伴ヒマシテ、生産數量ノ目標ヲ隨時訂正シテ參ツテ居リマスノデ、一年間ヲ通ジテ是ダケト云フ正確ナ計畫的數字ハ立テテ居リマセヌ、ソレカラ既往ノ生産數量ニ付テ申上ゲマスト、最近ニ於キマシテハ、昭和十一年ガ比較ト、十五年ガ七億九千万貫、斯ウ云フ數字約十億万貫デゴザイマス、所ガ十二年ニナリマスト、是ガ八億九千万貫強、十三年ガ農林統計ニ依リマスト、九億九千九百二十万貫ト云フヤウナ數字ニナツテ居リマス、十四年ガ八億四千五百万貫、十五年ガ七億九千万貫、斯ウ云フ數字ニナツテ居リマス、然ラバ十六年ハドウカト申シマスト、十六年ノ數字ヘ、最近集計致シマシタ農林統計ノ數字デ見マスト、約九億万貫ヲ超スノデゴザイマスガ、是ハ農林統計ノ集計方法ガ變リマシタノデ、是ガ直チニ十五年ト比べテノ實績ヲ示スモノト云フ風ニハ行カナイト存ジマス、然ラバ其ノ統計ノ集計方法ヲ假リニ同様ニ見ルトドウナルカト言ヒマスト、是ハ十五年ノ方ガ十六年ノ九億万貫ヲ基礎ニシテ改訂セラレタ數字ニナラナケレバナラナイト云フ風ニ私共ハ考ヘテ居リマス、即チ十五年以前

ノ農林統計ニ現ハレテ居リマス數字ハ、十六年以降ニ現ハレテ參リマス數字ニ比べマシテ、見積リ方ガ少イ、然ラバソレハ大體ノ見當トシテドウ云フ程度ニナルカト云フ見當ヲ申上ゲマスト、十六年ハ十五年ニ比ベマシテ、先ヅ二、三割見當總收穫高ガ減ツテ居ルノデハナイカト云フ風ニ吾々ノ方は是ハマダ集計ハ全然出來テ居リマセヌ、隨ヒマシテ是モ見當ガ付キマセヌケレドモ、十七年ハ十六年ヨリモ更ニ若干減ツテ居ルノデハナイカト云フ風ニ考ヘラレマス、生産數字ハ大體サウ云フコトニナツテ居リマス

ナイ、サウ云フ方面ハ水物デアルカラ分ラ  
居リマス時ニ、水産方面ニノミ重點ヲ置イテ、  
人爲の方面ヲ餘リ考ヘナイト云フコトハ、  
農林統計全體ニ於テ、ソレヲ計畫化サレテ  
デアリマスガ、計畫ノ數字ト申シマスナラ  
バ、今マデノ計畫ニ比べテ、資材ガドノ程  
度ニ渡ルカ、ソレニ依ツテドノ程度マデ歎  
字ヲ上ボシテ行ケルノカ、斯ウ云フコトヲ  
一ツ明瞭ニ、キントハ分リマスマイケレ  
ドモ、ハツキリサスコトハ特ニ必要ダト思  
ヒマシテ、先程カラ御尋ネシテ居ルノデアリ  
マス、希望トカ理想トカ云フ數字デナクテ、  
計畫ノ數量ガ分ツテ居レバ御示シ願ヒ  
タイ

船ノ數ハ最近ニ於キマシテハ、建造モ必ズシモ思ハシク行ツテ居リマセヌゾ、寧ロ減少ノ傾向ニアルモノト私共ハ思ツテ居ルノデゴザイマスガ、農林統計ニ現ヘレテ参リマス事實ハ、最近ニ於キマシテ增加シテ居ル、ソレカラ更ニ漁獲ノ種類ニ付テ考ヘマシテモ、其ノ漁業ノ種類毎ニドノ位ノ船ガ使ハレテ居ルカ、ドノ位ノ人數方使ハレテ居ルカ、是ガ中々算定ガ出来ナイノデアリマス、昨年カラ其ノ資料ヲ検討致シマス爲ニ、四、五人掛リデヤツテ居リマスガ、未ダニ其ノ基礎資料ガ出来テ居ナイ、斯ウ云フノガ實情アリマス、併シナガラソレデハ計畫生産ガ出來ナイカラ、至急サウ云フ資料ヲ一面ニ於テ整備ヲ圖リマスト共ニ、從來ノ大體ノ傾向カラ致シマシテ考ヘラレル見當ヲ成ベク正確ニ立テ行ク、例ヘバ一、二ノ業態ノ資料ニ付テ標準ノモノヲ取リマシテ、平均的ニソレヲ考ヘテ計畫ヲ立テ行ク、斯ウ云フヤウナリ方モシナケレバナラナイト云フノデ、今サウ云フ標準的ナモノヲ取リマシテ、ソレニ依ツテ全體ガドウナルカト云フコトヲ推測致シマシテ、計畫ヲ立テテ參ルト云フヤウニ努メテ居ル次第デゴザイマス、是ハ十八年ノ只今申上ゲマシタ大體ノ目標ハ、現在吾々ニ分ツテ居リマス標準的ナ生産條件ト云フモノガ總テ好都合ニ参リマスレバ、此ノ程度ノ生産方出來ル、斯ウ云フ數字デゴザイマス

ル、ソレダカラ急ガナケレバナラヌト云フコトト、同時ニサウ云フコトデハ少シ賴リナイト云フ感ジモ一面スルノデアリマス、勿論相手ガ海デアルカラ簡単ニハ行カナイト云フコトハ分リマス、唯私ハ斯ウ云フコト考へナケレバナラヌト思フ、例ヘベ價格ノ問題ヲ例ニ取ツテ見テモ言ヘルト思フ、私達ハ田舎ニ居リマシテ、鱈ノ價格ハ丸公ニナツテ居ラナイ、政府ノ方デ大衆魚ノ捕獲ヲ希望シテ居リマスガ、漁民ノ方ハ鱈ヲ獲ル、數量ガ少クテモ價格ガ擧ルカラ鱈ヲ獲ル、斯ウ云フコトカラ私ハ他ノ漁獲ノ數量ガ減ツテ來テ居ルト思フ、ダカラ價格ノ意味カラ多少考ヘル必要ガアルト思フ、ソレカラ資材ノ點ニ付キマシテモ、實ハスウ云フコトガアルノデアリマス、高知縣ノ方ノ大引ノ網ヲ引ク場合ニハ、昔ヘ石ヲ使ツタノデアリマスガ、石デヤリマスト海底ニ石ノ山ガ出來テ漁場ガ荒レルノデ、仕方ガナイカラ呴ニバラスフ入レテ、石ノ代リニスル、香川縣ノ呴ガ高知縣ニ一年間ニ二十分位行ツタ、サウシテ高知縣全體デ鱈、鯖ト云フモノガ隨分獲レル、是ガ阪神方面ヲ潤シテ居ツタ、所ガ此ノ頃呴ヲ手ニ入レヨウトシテモ配給ガ決マツテ居テ中々廻ラナイ、私資材課長ノ所ニ行ツテ數量ヲ教ヘテ貰ツ、所ガ此ノ頃呴ヲ手ニ入レヨウトシテモ配給ガ決マツテ居テ中々廻ラナイ、私資材課長ノ所ニ行ツテ數量ヲ教ヘルヤウニナツテ居ル、斯ウ云フ油ノ不足シタト云フコトモ事實デアリマスケレドモ、エテ來マセウケレドモ、全體的ニ減ツテ來漁業用ノ藁工品、呴トカ繩ト云フモノハ少

シ努力スレバ、或ル程度マデ補ヒガ付ク、斯  
ウ云フ點ヲ少シ努力シテ戴キマスト、或ル  
程度ノ捕獲量ハ殖エテ來ルト考ヘル、モツト  
簡単ニ行ク問題ハ、淺海ニ於テ魚介類ノ養  
殖ラヤル、若シクハ内水面ヲ極度ニ利用ス  
ル、是ハ農林省水產局ノ指導ノ下ニヤラレ  
タト思フノデアリマスガ、隨分水田、溜池、  
河川等ニ於テ内水面ノ未利用面積ガアルト  
思フ、是モ最近ハ相當努力サレテ居リマス  
ガ、斯ウ云フコトニ付テモ一層努力シテ戴  
キタイ、サウ云フコトニナルト、現在ノ量ノ上  
ニ、内水面ノ利用ヲ是ダケ擴大シタカラ、  
此ノ程度ニ殖エルノデハナカラウカ、或ハ  
高級魚ノ代リニ大衆魚ノ捕獲ヲ獎メル、其  
ノ爲ニ努力スルナラバ、ソレニ依ツテ捕獲  
量ガ殖エルノデハナイカ、其ノ他資材ヲ少  
シ融通シテヤルナラバ、ソレニ依ツテ多少  
殖エルノデハナイカ、斯ウ云フ風ニ色々ナ  
手ヲ打ツテ、サウシテ捕獲量ガ殖エルヤウ  
ナ處置ヲ講ジテ——現在モサレテ居ルコト  
ハ認メマスガ、サウ云フコトヲ具體的ニズ  
ツ努力サレマシテ、其ノ結果過去ノ實績  
ノ上ニ之ニ依ツテ何割増加スルデアラウカ、  
或ハ幾割減ルデアラウカト云フヤウナコト  
ガラ、大體ニ於テ計畫生産ノ數量ガ出テ來  
ル、全部サウ云フコトニハ參ラナイカモ知  
レマセヌガ、サウアルコトヲ希望スル、現  
在配給ノ面ニ於テ魚ノ量ガ少イト云フコト  
ガ、最モ大キナ問題ニナツテ居リマス爲ニ、  
レバ承リタイト思ヒマスシ、ナケレバ次ノ  
質問ヲ致シマス

一々御尤モニ存  
マシテモ、御話  
體ノ目標ヲ立テ  
成ベク收穫量ノ  
體ノ供給致シマ  
産ノ方途ヲ講ジ  
レカラ内水面及  
ハ、増殖ニ付テ  
ヲシテ居リマス  
的ニ行ハレマス  
ヲ増加シマスヤ  
行キタイト思ヒ  
○前川委員 特  
配慮ヲ願ツデ、  
魚ノ種類ニ向ツ  
ガ私ハ必要デア  
定價格ノ凸凹ガ  
格トノ間ニ凸凹  
良イ物ニ力ヲ入  
ルヤウニ見エル  
價格ヲ全魚類ノ  
斯ウ云フコトニ  
上ニ付キマシテ  
モノモ滑カニナ  
スカラ、全部ニ  
ガ宜イト思フ、  
見ヲ承リタイ  
○寺田政府委員  
ハ、色々之機會  
面ト致シマシテ  
ヤウニナリマシ  
決メラレタノデ  
ノ後ノ生産事情  
ツテ來ルモノモ

ジテ居リマス、私共ニ於キ  
ノヤウニ漁業ノ種類別ニ大  
マシテ、而モ御話ノヤウニ  
多イモノ、サウシテ其ノ大  
ス方向等モ考ヘマシテ、生  
テ居ル次第アリマス、ソ  
ビ淺海ノ方面ニ於キマシテ  
モ是亦一昨年以來十分努力  
、今後トモ此ノ生産ノ計畫  
ヤウニ、更ニ又生産ノ數量  
ウニ、色々ト方針ヲ進メテ  
マス

ニ公定價格ヤ何カニ付テ御  
出來得ルナラバ一ツ全部ノ  
テ公定價格ヲ適用スルコト  
ルト思フ、中ニハ非常ニ公  
アリマス、又丸停ト公定價  
ガアリマシテ、自然價格ノ  
レヨウトスル傾向ガ事實ア  
、此ノ點ニ付キマシテハ、  
各種類ニ向ツテ適用スル、  
御盡力ヲ願ヒタイ、價格ノ  
考慮スレバ、出廻リノ惡イ  
ツテ來ルト思フノデアリマ  
、對シテ公定價格ヲ適用スル  
事務ニ、色々ト研究ヲシテ  
ス、公定價格制度ヲ採ラレル  
タ際ニ、色々ト研究ヲシテ  
ゴザイマスケレドモ、又其  
ノ變化ト云フコトガ色々起  
ゴザイマスシ、常ニサウ云

Digitized by srujanika@gmail.com

於テモ海鼠トカ帆立貝トカ云々モノハ相當

フ實情ノ變遷ニ付キマシテハ、注意ヲ怠ラ  
ナイデ居ル次第デゴザイマス、二、三ノモ  
ノニ付キマシテハ、其ノ當初決メラレマジ  
タ公定價格モ、實情上改訂ヲ必要トスルモ  
ノニ付テハ、既ニ改訂セラレマシタモノモ  
アル次第デゴザイマス

○前川委員　内水面及び淺海魚ノ一番確實性ト思ヘレマス養殖業、斯ウ云フ方面ニ付テ伸バシ得ル可能性ハ隨分アルト思フノデアリマスガ、今政府ノ持ツテ居リマス數字ノ中デドノ程度ヤリ得ルノデセウカ  
○寺田政府委員　養殖ノ方面ニ於キマシテ、計畫的ニ之ヲ伸バシ得ルモノモ少クナイト思ツテ居リマス、併シナガラ是モ一概ニ養殖ト申シマスガ、養殖ノ中デモ餌ヲ必要トスル養殖ニ於キマシテハ、是ハ餌ノ關係モアリマスノデ、急激ニ増産ヲ期待スルヤウナ計畫モ立ニクイト思ツテ居リマス、ソレカラ餌ヲ要シナイヤウナ養殖モゴザイマスガ、此ノ方ハ天然ノ繁殖ヲ人力ニ依ツテ助ケテ行クト云フヤウナコトガ主ニナリマスノデ、是モ一應ノ標準ヲ以テ増産ヲ圖ツテハ參リマスケレドモ、正確ニハ參リマセヌ、併シ大體ニ於テ其ノ需要ヲ要スルモノ要シナイモノヲ合セテ、年々一割位ヅツノ養殖ニ依ル増産ヲ圖ツテ行クヤウニシタイト云フ目標ヲ以テ進ンデ居リマス  
○前川委員　私ハ内水面及び淺海ノ方面ノ養殖事業へ、是ハ一番確實性ガアリ、材料ツテ生産サレルモノノ數量ニ對シテ、其ノ一割位ヅツ増産ヲ圖ツテ行クヤウニシタイニ御盡力願ヒタイト思ヒマス  
尙ホ御尋ネ致シタイコトハ、瀬戸内海ニ

イ、斯ウナツテ居リマスト、是ハ非常ニ片手落チニナルト思フノデ、濫獲ヲヤラサナイト云フナラバ、各縣ガ共通性ヲ以テヤリ得ルヤウナ御方針ヲ採ツテ戴キタイ、是ハ特ニ御願ヒシテ置キマス、特ニ水產團體ガ出來マストサウ云フコトガ非常ニヤリ易クナルト思ヒマスカラ、特ニ御盡力願ヒタク

○前川委員 各縣ニ於キマシテ鮮魚ノ出荷計畫ト云フモノヲ立テ居ルノデアリマスガ、是ハ勿論漁業組合ナリ、水產會ノ意見ヲ徵シテヤツテ居レルト思フノデアリマスガ、實際ニ於テハ其ノ出荷計畫ト云フモノヲ非常ニ嚴密ニヤラレテ居ル縣モアリマスガ、中ニハ餘リソレガ嚴密デナイ爲ニ、其ノ縣デ漁獲シナガラ漁獲シタモノガ其ノ縣へ十分ニ廻ラズニ、比較的價格ノ高イ他方ニ闇ニ紛レテ出テ行ツテシマフト云フコトガアルヤウニ見受ケルノデアリマスガ、今度新シイ水產團體ガ出來マスト、斯ウ云フ點ニ付テ農林當局ハドウ云フヤウニ御指導ナサル積リデアルカ、承リタイト思ヒマス

村ノ漁業會ヲ中心トシマシテ、道府縣ノ團體及ビ中央ノ團體ニ於テ是等ヲ集計致シテ見マスト、凡ソ全貌ガ判明シテ來ルシ、自然又其ノ生産量ニ出荷ニ付キマシテモ、計畫的ニ行ハレ得ルヤウニナツテ來ル、斯ウ云フヤウニ私共ハ期待ヲシテ居ル次第デゴザイマス○前川委員　此ノ漁業組合ト水產會ガ一ツニナリマシテ、新シイ水產團體ガ出來ル、斯ウナルト其ノ縣ノ出荷ノ量ガ幾ラカト云フ計畫ヲ立テルコトガ出來、ソレガ出行ク地方ガ何處トドノ方面ダ、其ノ數量ハ幾ラダ、斯ウ云フコトガ決マル筈グト思フ、新團體ハ恐ラク其處マデ決メテヤラナケレバナラヌト思フノデスガ、サウナツテ來タ時ニ沖買ヲヤツテ居リマス者ノ取扱ヘドウナルノデスカ、例へば其ノ他色々ノ場合ニ於キマシテ、仲買業者ガナクナツタ場合ガ多イノデアリマスガ、是モサウ云フヤウニサレル方ガ、計畫ヲ非常ニ嚴密ナラシメルコトニナルト思フノデスガ……

○前川委員 是ハ任意加入デアリマシテモ、  
加入致シマスルト其ノ統制下ニ置カレルノ  
デアリマスガ、若シ加入致シマシテ、其ノ  
統制下ニ置カレルト、自分ハ旨ク商賣ガ出  
來ナイ、ダカラシテ加入ヲシナイ、斯ウ云  
フコトニナル場合ヲ私達ハ豫想ヲシナケレ  
バナラヌト思フ、是ハ新水産團體ト、ソレカ  
ラ相手ノ市場ト云ヒマセウカ、苟受ノ組合  
ト云ヒマセウカ、或ヘ配給統制協會ト云フ  
モノガアルト思ヒマスガ、サウ云フモノト  
ノ間ヲモウ少シ緊密ニシテ、サウシテ新シ  
次仕向ケテ行クヤウナ御方針ヲ以テオヤリ  
ニナルコトノ方ガ、沖賣業者ヲ直グナクシ  
テシマフ譯デナク、配給物ヲ非常ニ不圓滑  
ニシタリスルヤウナ結果ヲ私達ハ救フコト  
ガ出來ルト思フ、何カソレニ對シマシテ今  
御答へ願ヒマシタ以上ニ御方針ガアリマス  
レバ伺ヒタインデアリマス

尙ホ一點次ニ御尋ネ致シタイト思ヒマス  
ノハ、今マデノ地方ノ漁業組合ハ、市場ニ  
魚ヲ出シマス場合ニ、特ニドノ市場へ持ツ  
テ行クト云フコトガハツキリシテ居ナイ爲  
ニ、田舎ニ行クトマダ耀ル所ガ殘シテ居ル  
ノデアリマスガ、價格ヲ高ク耀ル所、或ハ  
歩合ノ低イ所、斯ウ云フ方面へ品ガ流レテ  
行ク傾向ガアル、少し小賣ノ連中ガ組合デ  
モ作リマシテ、市場ノ人達ガ嚴格ニ仕事ヲ  
始メマスト、ウルサイモノデスカラ其處へ  
魚ガ寄ツテ來ナイ、特ニ目減リ等ノ問題、  
十貫ノモノガ八貫五百トカ、九貫ニモ足ラ  
ナイト云フ場合ニモ、黙ツテ受取ル市場ナ

ラ行ケルガ、ソレヲ一ツ／＼看賣シテヤリ  
マスヤウナ市場ニハ、ヤハリ魚ガ寄ツテ來  
ナイ、斯ウ云フ實情ニアル所ガ多イノデア  
リマスガ、斯ウ云フ場合ニハ新シク出來マ  
ス團體ト一部市場ト云フモノ、ソレカラ最  
終ノ配給業者、斯ウ云フモノノ間ヲ何カ旨  
ク結付ケテ行クヤウナ方法ガ講ゼラレテ行  
キマセヌコトニハ、今日巷間魚ノ問題ガ非  
常ニ問題化シテ居リマスル際トシテハ、解  
決ハ付カナイノデヤナイカ、斯ウ云フヤウ  
ニ私ハ考ヘルノデアリマスガ、今ノ二點ニ  
付キマシテ御所見ヲ承リタイト思ヒマス  
○寺田政府委員 沖買ノ對策トシテ、市場  
トノ連絡ニ付テノ御尋ネガ第一點デアツタ  
ト存ジマスガ、是ハ此ノ團體ノ整備ニ伴ヒ  
マシテ、市場トノ連絡方法ヲ十分考究ヲ致  
シマシテ、遺憾ノナイヤウニシテ參りタイ  
ト存ジテ居リマス

ハーツ本省ノ方カラ、價格ダケハ嚴格ニ全  
部ヤレト云フ方針ヲ一本全部ニ通達サレマ  
スト、私ハサウ云フ偏在ハナクナツテ來ル  
ノデハナイカト思フ、是ハ實際地方ニ於キ  
マシテ眞面目ニヤラウトスレバ品物ガ手ニ  
入ラナイ、不眞面目ト云フ譯ヂヤアリマセ  
ヌガ、少々ノ目減リヲモ見込ンデヤルト、  
最終配給業者ノ利潤ト云フモノハ決マツテ  
居ルノデアリマシテ、最終消費者ノ方面デ目  
方デ何トカ融通ヲ付ケナケレバ仕方ガナイ、  
或ハ價格ノ點デ何トカシナケレバ仕方ガナ  
イト云フヤウナ箇ガ、自然ソコニ生レテ來  
ザルヲ得ナイ結果ニナリマス、配給協會ガ  
各縣ニゴザイマスガ、ソレ等ガ受ケル場合  
ニ於テモ嚴格ニヤルヤウニ、又市場ニ於テ  
モ嚴格ニヤルヤウニ、本省トシテ此ノ點ヲ  
嚴格ニ御指示ヲ願フコトガ出來レバ、鮮魚  
ノ方面ニ於ケル不公正ナ取引ガ大分影ヲ消  
スト思フノデス、此ノ點ハ大シタ難カシイ  
問題ナインデアリマスカラ、一ツ既斷ヲ  
以テオヤリニナレバ結構ダト思イマス、此  
ノ點大臣ガオイデニナツテ居ルノデアリマ  
スカラ、此ノ際大臣ノ御意見ヲ承ルコトガ  
出來レバ結構ダト思イマス。

○井野國務大臣 目減リノ問題ハ私モ色々  
伺ツテ居リマシテ、サウ云フ點ハ十分注意  
シテ全國的ニ指示ヲシテ參リタイト思ヒマ  
リマスガ、色々事情ガアルト云フ御話ニア  
ス

○前川委員 ソレカラ尙ホ業務用ト、消費者  
ガ直接生産者ノ所ニ買出シニ参リマス場合  
ニ、一定數量ノ例外ガ認メラレテ居ルノデ  
アリマスガ、之ヲ一ツ御止メニナル方ガ、  
配給ガ非常ニ滑ラカニナルヤウニ考ヘルノ  
デアリマス、是ハ昨年モ御願ビシタノデア  
リマスガ、色々事情ガアルト云フ御話ニア

リマシテ、中々旨ク参リマセヌケレドモ、一ツ出来マスコトナラバ、配給ノ組織或ハ形態等モ大分訓練サレテ旨ク出来掛ケテ來テ居ルノデアリマス、カラ、料理屋及ビ消費若シ認メラレルナラバ其ノ數量ハ極メテ少量化ニシテ戴キタイ、殊ニ高級ナ料理屋アタリハ、舟ヲ持ツテ直接沖ノ漁師ノ所ニ買ヒニ参リマス、其處デ取引ノ結果ハドノヤウニ結果ニナツテ居ルカ、私達分リマセヌケレドモ、恐ラクハ不公正ナル取引ガサレテ居ルノデハナイカト想像ガサレルノデアリマスガ、斯ウ云フ點等ヲモ御考ヘ下サイマシテ、料理屋ニ行ケバ魚ハアルケレドモ、家庭ニハ魚ガ廻ツテ來ナイ、是ハ最モ大辛ナ不平ナリ、非難デアリマシテ、サウ云フ不平ヲ防グ一ツノ方法ト致シマシテ、業務用ニ出買ヲスル、或ハ消費者ガ出買ヲスルコトヲ御止メニナル御方針ヲ御聽キシタインデアリマスガ、之ニ付テノ御考ヘヲ承リタイト思ヒマス

○田中(啓)政府委員 出荷統制ノ例外ノコトニ付キマシテハ、御話ノヤウニ大分弊害ノアルコトモ承知致シテ居リマシテ、或ル程度實ハ弊害ノアルト云フ資料モ揃ヘテ居ルノデアリマス、少クトモ極メテ少量ニスル趣旨ニ於キマシテ、目下案ヲ折角作成申デアリマス、成ベク早く致シタイト思ツテ居ル次第アリマス

○前川委員 今ノ答辯ニ非常ニ大キナ期待ヲ私達掛けタイト思ヒマス、尙ホ最後ニモウツ御尋ネ致シタイコトハ、各地方ニア常ニ圓滑ナラシメントコトト思フノデアリマス最終配給業者、所謂小賣業者ノ組織ヲシツカリ固メマスコトガ、私ハ配給ヲ非

ス、殆ド今ノ魚ガ消費地中心價格デ決メテ  
レテ居リマス爲ニ、生産地ニ於テ既ニ値上  
リシテシマツテ居ル、其ノ爲ニ山間部トカ  
遠距離ノ方面ニ魚ノ出廻リガナインデアリ  
マス、是ハ國民保健ノ上カラ見テモ、極メ  
テ重大ナル問題デアルト思フノデアリマス、  
サウ云フコトハ今價格ノ操作ニ依ツテヤル  
ト云フコトハ、中々困難デアラウト思フノ  
デアリマス、ソレヲヤリマス一ツノ方法ト  
シテハ、其ノ最終ノ配給業者ノ仕事ヲ擔當  
致シテ居リマス小賣業者ノ組織、之ヲ非常  
ニ几張面ニ嚴格ニオヤリ願ヒ、訓練等ヲヤ  
リマシテ、サウシテ遠隔ノ地方マデモ此ノ  
配給ヲ圓滑ニシテ行ク、斯ウ云フ御指導ヲ  
願フト云フコトガ、一番宜イノデヤナイカ、  
ウ云フコトニ關聯致シマシテ仕事ヲヤツテ  
一番手ツ取早ク出來ル方法デアルト、斯様  
ニ考ヘテ居ルノデアリマス、私共モ多少サ  
ウ云フコトニ關聯致シマシテ仕事ヲヤツテ  
居ルノデアリマスケレドモ、一つノ全縣的  
ノ小賣業ノ組織ヲ作ルコトヘドウシタモノ  
カ、餘リ縣ノ水產課モ好意ヲ持タス、漁聯  
モ好意ヲ持タス、市場關係者モ好意ヲ持タ  
ヌ、ソレハ大キナ小賣業者ノ組織ノ力ヲ以  
テヤレバ出來ルニ違ヒナイ、サウ云フコトハ  
厭ガルノカドウカ知リマセヌガ、私達ハ眞  
面目ナ氣持デ指導シテ居ルニ拘ラズ、生產  
團體ガ餘リ好意ヲ持ツテ來ナイト云フ實情  
ニアルノデアリマス、水產方面ノ團體ガ立  
派ニ出來マシテモ、之ヲ配給致シマスル未  
端組織ガナケレバ、餘リ今ト變リナイヤウ  
ニナルノデハナイカ、是ハ兩者ガ並行シテ  
進マナケレバナラナイ所ノ重大ナル點ガ、  
今餘リ重要視サレテ居ラナイヤウニ感ジル  
ノデアリマス、之ニ付テノ御當局ノ御方針

○田中（啓）政府委員 少イモノヲ全國的ニ  
適正ナル配給ヲ致シマスル爲ニハ、勿論價格  
ノ面ニ付テモ大事アリマスガ、一面配給  
機構ヲ、獨リ唯末端ノ配給機構ト云ハズ、  
卸賣市場ニ致シマシテ、漁聯ニシマシテモ、  
相當ノ整備ヲ加ヘナケレバナラヌコトハ當  
然ダト思ヒマス、唯整備ノ仕方ニ付キマシ  
テハ色々論モアルノデアリマシテ、所謂個  
人企業ヲナクスト云フヤウナ意味ノコトヲ  
必ズシモヤル必要ハナイト思ツテ居ルノデ  
アリマスケレドモ、之ヲシツカリシタモノノ  
ニシテ適正ナル配給、方出來ル程度ノモノニス  
ルコトハ、是ハ是非必要ダト思フノデアリマ  
ス、デアリマスガ、非常ニ廣汎デアリマ  
スカラ、中々一舉ニ全面的ニヤル譯ニハ參  
リマセヌノデ、色々種類業種ヲ限ツテ、着  
着進メテ行キタイト云フヤウナ點カラ努力  
シテ居ル積リデアリマス

○前川委員 鮮魚ノ配給ハ是ハ業態ガ一ツ  
ナノデアリマシテ、加工業者ハ別ニ致シマ  
シテモ、一ツニ纏メテ行ケル譯デアリマス、  
今ノ時代デアリマスカラ皆將來自分達ガド  
ウナルカト云フコトヲ考ヘテヤツチ居ル、  
少シ指導方針サヘ示セバ、是コソ東條總理  
デハナイガ、下カラ盛上ル力ガ湧イテ來ル、  
上カラ指導方針ヲ示サヌガ故ニ出來テナイ  
點ガアルノヂヤナイカト考ヘルノデアリマ  
ス、其ノ一つノ指導方針ヲ今御示シニナリ、  
勿論是ガ出來マスルト整合モ御考ヘニ  
ナルコトデアラウト考ヘマスガ、其ノ人員  
ノ整理、家ノ整理モ結構デアリマス、其ノ  
場合ニ尙ホ私ハ併セテ聽キタイト思ヒマス  
ゴトハ、共同販賣ト云ツタヤウナ形ノモノ  
デ後ニ殘スノガ宜イノカ、ソレトモ單獨經  
營ノ店ヲ後ニ殘サレタ方ガ宜イノカ、是ハ

今日ノ小賣業者ノ一番大キナ問題ト致シテ居ル點ナノデアリマシテ、之ニ付キマシテ一ツ御意見ヲ承リタイト思フノデアリマス、是ガ第二點デアリマス、ソレカラ尙ホ今マデノ小賣ノ人達ガ、直接他ノ縣外ノ市場等ニ參リマシテ、相當ノ取引ヲシテ居ツタ面ガ廣イノデアリマス、所ガ各縣ニ配給統制協會ト云ツタヤウナ荷受、荷捌、小賣ノ一ツノ組織ガ出來テ居リマシテモ、其ノ中ニ一體入ルベキカ、入ラナイノガ本當ナノカト云フ點ガ明瞭デナイ、今マデノ配給統制協會デアリマスト、荷受、荷捌ヲ致シマスル此ノ組織ノ圈外ニ、小賣ノ全縣の組織ガ置カレテ居ラヌヤウナ縣モアルヤウニ見受ケル、私ヘ今マデノ取引關係カラ見マスト、小賣業者ガ縣外ノ市場ト取引ヲヤツテ居ツタノデアルガ、ソレガ配給統制協會ニ入ツテ來ルノデアリマスガラ、當然是モ配給統制協會ノ中ヘ入ルベキ性質ノモノダト考へルガ、サウ云フ點ニ付テハドウ云フ方針デオヤリニナルカ、入レルノガ本當カ入レナイノガ本當カ、或ハ其ノ地方ノ實情ニ依ツテ適當ニヤツテ行ケト仰シヤルノカ、ソレ等ノ點ヲ伺ヒマス

ノ縣トシテ纏マツタ小賣組合ガ出來レバ、  
ヤハリ荷受機關ノ仲間ニナルベキデハナイ  
カト云フ御議論モアリマスガ、是ハ何レモ  
難カシイ問題デアリマス、唯小賣ノ整備ニ  
付キマシテハ、幸ヒ昨年閣議モ決マリ、又  
通牒モ出テ居リマスノデ、大體其ノ方針デ  
行クコトニ違ヒハナインデアリマス  
大體ニ於テハヤハリ小賣ガ荷ヲ引クノハ極メ  
テ例外的ノモノデアリマスカラ、此ノ卸團  
體ヲ受持ツテ居ツタモノガ、荷受機關ヲ構  
成シテ行クノガ先づ筋デハナカラウカト思  
ニ言ヘヌノデハナイカト思ツテ居リマスガ、  
入ルカ入ランカト云フコトハ、必ズシモ一概  
ニヤウナ地方モアリ得ルノデアリマスシ、  
又其ノ實績等モ様々アラウト思フノデア  
リマスカラ、ソレハ又ソレデ實情ヲ調べマ  
シテ、適切ナ解決ヲ致シタイト思ヒマス  
○前川委員 一ツ實例ヲ申上ゲマス、香川  
縣ノ或ル地方デ、今マデ仲買ノ連中ガ相當  
市場ニ從屬シテ居ツタノデアリマス、其ノ  
仲買ヲ漸次止メサセマシテ皆小賣ニシテシ  
マツタ、所ガ仲買ト云フモノハ縣外取引ノ  
ダケデ扱フ量ノ方ガ分量ガ多イ、ソレデ其  
處デ經營サレテ居リマスモ知レマセヌ、  
フモノハ、實際ニ今マデ取引サレテ居タ數  
量ヨリモ非常ニ多クノ數量ヲ持ツテ居ル、  
是ハ他縣ニ比ベマスト變態カモ知レマセヌ、  
然ルニ配給統制協會荷受機關ガ出來ル  
ト、市場ヘ其ノ中ニ入ルガ、今マデ折角  
仲買ガ市場デ重要役割ヲシテ居ツタノガ、  
之ヲ小賣ニシタ爲ニ、從來ノモノガ縣外ニ  
逃ガラレテシマツテ居ルト云フ實情ニアル、

是ハ各地方々々デ様々ナ違ツタ事情ガア  
ルト思ヒマスガ、斯ウ云フ場合ヲ一ツ前提  
ニシテ御考ヘヲ願ヒマスルト、私ハ小賣商  
業組合ト云フモノハ荷受機關デアルカラ配  
給協會ノ中ニ當然入レナケレバナラヌモノ  
ダト云フヤウニ考ヘル譯デアリマス、是ハ  
縣ノ水產課長ハ中々方針ヲ示サナイ、本省  
ノ方カラハツキリ方針ヲ御示シニナラナイ  
カラ能クヤラナイト思フガ、斯ウ云フ場合  
ハドウスルノカ、一ツ本省ノ御意見ヲ承ツ  
テ見タイ

○田中(啓)政府委員 今香川縣ノ實例ヲ伺  
ヒマシタガ、ドウモ此ノ點ヘモウ少シ能ク  
調ペマセヌト、此ノ際輕々シク申上ゲルコ  
トハ、却ツテ惡影響ヲ與ヘル虞ガアリマスカラ、能ク調ベタ上デ善處シタイト思ヒマス  
○東郷委員長 岡田啓次郎君

○岡田(啓)委員 十四條デスガ、「漁業會ノ  
地區ハ市町村又ハ市町村内ノ漁業者ノ部落  
ノ區域ニ依ル」ト云フコトニナツテ居リマス  
ルガ、從來漁業組合ハ町村單位ニ整理統合  
サレルヤウナ方針デ進シテ參ツテ居ツタ實  
情モアリ、殊ニ漁村ノ總力體制ト云フヤウ  
ナ立場カラ申シマスナラバ、部落ヲ區域ト  
スルモノニ整理統合シタガ宜イデハナイカ  
ト云フヤウニ考ヘラレルノデアリマスガ、  
ノモノト、兩方トモ將來ト雖モズツト認メ  
テ進シテ行カレル方針デスカ、モウ一度御  
伺ヒシタイ

○寺田政府委員 從來此ノ市町村區域ノモ  
ノト、部落區域ノモノト兩方アツタノデア  
リマスガ、將來トモ其ノ兩者ヲ認メテ行ク  
ノ任意團體トシテ結成サレテ居リマスル團  
體カラノ要望等モアリマスノデ、斯ウ云フ  
途ヲ開いて居ル次第デアリマスガ、ソレ等  
ノ實情モ能ク考ヘマシテ、更ニ又今後モ漁  
業ノ計畫的ナ增産ニ即應スルヤウニ、考ヘ  
テ参リタイト思ツテ居リマス

○岡田(啓)委員 只今ノ御説明ニ依リマス  
テ、御考ヘニナツテ居ラナイノデアリマスカ  
ルト、現在御考ヘニナツテ居リマスルノハ  
池中養殖、其ノ他其ノ地方ノ實情ニ依ツテ  
考ヘルト云フ御話デアリマスガ、サウスル  
ト現在デハ機船底曳網漁業トカ、巾着網漁  
業トカ、或ハ又定置漁業等ハ其ノ對象トシ  
テ御考ヘニナツテ居ラナイノデアリマスカ  
ストカ、錨揚網漁業デアリマストカ、其  
ノ他ノ漁業ハ、漁業ノ種類トシテハ、一應

此ノ特別漁業會ヲ組織シ得ル漁業トナル譯

デアリマス、唯地方ノ實情等モ考ヘマシテ、

此ノ命令制定ノ場合ニ十分考ヘテ參リタイ

ト思ツテ居リマス

○岡田(啓)委員 次ニ第十六條ニ「左ニ掲グ

販賣業者ハ漁業會ノ會員ト爲ルコトヲ得」其ノ

一號ニ「會員ノ漁業ニ密接ナル關係ヲ有スル者」トアリマスガ、是ハ漁獲物ノ販賣業者

販賣業者ト言ツタツテ小ツボケナ販賣業者、

振賣リト申シマス毎日賣ツテ歩ク漁業者、

是ハ行商者デアリマスガ、是ハ此ノ中ニハ

入ルノデスカ、入ラナイノデスカ

○寺田政府委員 十六條ノ第一號ノ「會員ノ

漁業ニ密接ナル關係ヲ有スル者」トシテ考ヘ

テ居リマスノハ、大體會員タル漁業者ニ雇

傭セラレテ漁業ニ從事シテ居ル者トカ、ソ

レカラ其ノ水產物ノ製造、保藏、保管ニ當

ツテ居ル者トカ、斯ウ云フ者ハ直接漁業會

ノ會員ノ仕事ニ密接ナル關係ガアル、斯ウ

云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、ソレ

カラ「其ノ他命令ヲ以テ定ムル者」、是ハ一號

ト二號下ドチラト云フコトガハツキリシナ

イ者ガ出テ參リマス場合ニハ、命令デヘツ

キリ決メタイト思フノデアリマスガ、其ノ

一ツノ例ト致シマシテハ漁船ノ所有者、斯

ウ云フ者モ擧ゲテ行クヤウニ致シタイト思

ヒマス、更ニ地區内ニ住所ヲ有スル者デ、

キマシテハ、會員トナル途ヲ開イテ參リタ

イト考ヘマス

○岡田(啓)委員 御説明デ分リマシタガ、

一寸御尋ネシタインハ、鮮魚ヲ其ノ日ニ買

ツテ擔ツテ賣リニ行ツテ、ソレデ生活シテ

居ルト云フヤウナ部類ノ者モ相當アルノデ

ス、ソレハ斯ウ云ツタモノノ圈外ニ置カレ

ルノデスカ

○寺田政府委員 ヤハリ「密接ナル關係ヲ有

スル者」トシテ會員トナルコトガ出來マス

ニ結成サレルノデアリマスカ

○寺田(啓)委員 此ノ製造業會ノ組織ハ業

種別ニ依ルノデアリマスルカ、或ハ綜合的

考ヘデアリマス

○岡田(啓)委員 水產團體ノ統合ハ、此ノ

目的ガ結局是亦國策ニ協力致シマシテ、國

防國家體制ノ確立ヲ狙ヘレルト思フノデア

リマス、固ヨリ皇國農村建設ニ付キマシテ

ハ、既ニ豫算ニモ盛ラレテ居ルノデアリマ

スルガ、所謂皇國漁村ノ建設ト云フコトニ

對シマシテハ、當局ハ何カ御考ヘニナツテ

居ルノデアリマセウカ

○寺田政府委員 漁村ノ建設、特ニ皇國漁

村ノ建設ニ付キマシテハ、水產關係方面ニ

於キマシテモ色々ト考ヘヲ進メテ居ル次

第デアリマスガ、纏メテ皇國漁村ノ建設ト

云フコトニ付キマシテハ、水產關係方面ニ

マセヌケレドモ、趣旨ニ於キマシテハ、皇

國漁村ノ建設ニ付キマシテ、十分努メテ居

ル次第デゴザイマス

○岡田(啓)委員 趣旨ニ付テハ考ヘテ居ルト

云フ御話デアリマスルガ、皇國農村ヲ確立

ガ必要デアリマスルト共ニ、私ハ殊ニ今日

ニ於キマシテハ、皇國漁村ノ確立ガ必要デ

アルト思ヒマス、ソレニ付キマシテハ漁民

ノ鍊成ニ付キマシテハ、從來ノ實

績カラ考ヘマスト、漁獲高ガ非常ニ多イ種

類ノモノガ多カツタノデゴザイマス、隨テ

漁獲ガ多イト云フコトハ、自然其ノ價格ガ

ス、此ノ點ニ對シテハ如何デアリマスカ

○寺田政府委員 大衆食品ニ適スル種類

ノ漁獲物ノ價格ニ付キマシテハ、從來ノ實

績カラ考ヘマスト、漁獲高ガ非常ニ多イ種

類ノモノガ多カツタノデゴザイマス、隨テ

漁獲ガ多イト云フコトハ、自然其ノ價格ガ

ス、此ノ點ニ對シテハ如何デアリマスカ

○寺田政府委員 皇國漁民ノ鍊成ニ付キマ

シテハ、從來共考ヘテ居ルノデアリマスガ、

カ御考ヘニテ居リマスカ

僅カナガラ漁民道場等ニ依ル鍊成モ考ヘテ

助成、或ハ實際上ノ指導ト云フコトニ付キ

マシテモ努メテ參ツテ居ル次第デアリマス、

ト思ツテ居リマス

○岡田(啓)委員 次ニ第十六條ニ「左ニ掲グ

販賣業者ト言ツタツテ小ツボケナ販賣業者、

居リマスシ、漁民道場ノ施設ニ關スル補助

マシテモ努メテ參ツテ居ル次第デアリマス、

ト思ツテ居リマス、所ガ最近ニ於キマシテ生産

唯皇國漁民ノ鍊成ト云フコトニナリマスト、

ニアルノデアリマス、折角今皇國漁村ノ建

設竝ニ皇國漁民ノ鍊成ト云フコトニ付キマ

シテ、研究ヲ進メテ居ル次第デゴザイマス

○岡田(啓)委員 團體統合案ガ實施サレル

ノデアリマスルガ、實際ニ此ノ制度ガ出来

マシテモ、漁村民ノ鍊成ト云フコトハ私大

變必要ダト思ヒマス、殊ニ指導的ノ人物ヲ

得マスル上カラ見テ必要デアルト云フコト、

是ヘ篤ト御考ヘヲ願ツテ御處理戴キタイト

思フノデアリマス、ソレカラ先程御質問ガ

アリマシタガ、實際今日ノ漁獲物ノ價格ガ

安イ、殊ニ大衆的ノ漁獲物ノ價格ガ大變安

イノデアリマシテ、鯛トカ其ノ他高級ノモ

ノノ値段ハ相當高イ、隨テ實際漁獲スル上

カラ言ツテ、其ノ方向ニ向ツテ努力スル、

大衆的ノモノハ獲ラナイ、隨テ一般的ナ配

給ガ旨ク行カナイト云フヤウナ傾向ガアル

ノデアリマス、大衆ノ漁獲物ニ對シテハ鯛

等ガ顯著ナモノデアリマスガ、私ハ此ノ價

格ヲ是正ラシテ戴キタイト思フノデアリマ

ス、此ノ點ニ對シテハ如何デアリマスカ

○寺田政府委員 申シテ甚ダ妥當ナイヤウニ思フノデアリマス

シテ、此ノ間大臣ノ之ニ對スル說明ヲ聞イ

法ニ於テ、漁業ガ此ノ戰時下ニ營利ノ目的

ノ漁業ノ定義ト申シマスカ、「營利ノ目的ヲ

以テ」トアリマス、是ハ農業團體法ノ第八

條ニハサウ云フコトハアリマセヌデ、農

業ノ定義ニ付テ述ベテ居ル、特ニ水產團體

法ニ於テ、漁業ガ此ノ戰時下ニ營利ノ目的

ヲ以テ、國策ニ協力シテ、原始的營養食糧

ノ増產確保ニ當ルト云フ今日、此ノ字句ガ

申シテ甚ダ妥當ナイヤウニ思フノデアリマス

シテ、此ノ間大臣ノ之ニ對スル說明ヲ聞イ

テ居リマスト、釣漁業者ノヤウナ者ハ、率直ニ

申シテ甚ダ妥當ナイヤウニ思フノデアリマス

シテ、此ノ間大臣ノ之ニ對スル說明ヲ聞イ

テ居リマスト、釣漁業者ノヤウナ者ハ、率直ニ

申シテ甚ダ妥當ナイヤウニ思フノデアリマス

シテ、此ノ間大臣ノ之ニ對スル說明ヲ聞イ

場合ニ、サウ云フ大衆食品ニ向クヤウナ魚

ガ割合安カツタ云フコトハアラウカト思

ツテ居リマス、所ガ最近ニ於キマシテ生産

ノ事情ガ色々シテ變ツテ參ツテ居リマスノ

デ、ソレ等ノ變ツテ居ル事情等モ、今調査

研究ヲ致シテ居ル次第デアリマス、尙ホ必

要ト認メタモノ、或ハ是ハ改訂シナケレバ

無理ダト云フモノニ付キマシテハ、既ニ二

三改訂ヲセラレタモノモアルノデアリマス

ガ、今後トモサウ云フ事情ノ變化ニ付キマ

シテハ、注意ヲ怠ラテイデ參リタイト思ツ

テ居リマス

○岡田(啓)委員 次ニ先達テ濱地サンガ一

寸御尋ネニナツタノデアリマスガ、第九條

ノ漁業ノ定義ト申シマスカ、「營利ノ目的ヲ

以テ」トアリマス、是ハ農業團體法ノ第八

條ニハサウ云フコトハアリマセヌデ、農

業法ニ於テ、漁業ガ此ノ戰時下ニ營利ノ目的

ヲ以テ、國策ニ協力シテ、原始的營養食糧

ノ増產確保ニ當ルト云フ今日、此ノ字句ガ

申シテ甚ダ妥當ナイヤウニ思フノデアリマス

シテ、此ノ間大臣ノ之ニ對スル說明ヲ聞イ

テ居リマスト、釣漁業者ノヤウナ者ハ、率直ニ

申シテ甚ダ妥當ナイヤウニ思フノデアリマス

業法ノ第一條ニ書イテアル字句ヲ其ノ儘踏

講致シテ居ルノデゴザイマス、漁業法ノ規定トシテ使ヒマスノデ、其ノ間ニ漁業法ト水産業團體法トノ實施ニ付テ食違ヒガ起ツテハ困ルト云フヤウナ所カラ、漁業法ノ定義ヲ其ノ儘踏襲スルコトニ致シタノデアリマス、水産業團體法ニ於テ、漁業組合關係ノ規定ハ修正サレルコトニナリマスケレドモ、其ノ他ノ部分ニ付テハ修正ヲサレマセヌノデ、此ノ際ハ一應漁業法ノ規定ヲ其ノ儘踏襲シマシテ、其ノ間ニ誤解ヲ生ジタリ、或ハ色々又手續ノ食違ヒガ出來ナイヤウニト云フ趣旨デ、斯ウ云フ規定ヲシタノデゴザイマス。

○岡田(音)委員 漁業法ニ囚ハレテ御考ヘニナツテ居ルヤウニ考ヘルノデスガ、私ハ只今モ申シマス通リニ、今日ノ戰時下ニ於キマシテ國策遂行ノ強力機關トシテ、新タニ團體統合法ガ生レテ來マス際ニ、サウ云ツタコトニ囚ハレマスコトガ抑、間違ヒデナイカト思フノデアリマス、殊ニ農業ハ營利目的トシテ居ランイ、今日ノ時代ニ於テ水產業、漁業ノミガ營利ノ目的ヲ以テト云フ看板ヲ掲ゲテ進ムト云フコトガ抑、誤リダト思フノデアリマス、又水產業、漁業ノ名譽ノ爲カラ見テモ、斯ウ云フコトニハ囚ハレズニ、寧ロ同様ニ歩ミ方デ行カレナケレバナラ又筋合デナイカト存ズルノデアリマスルガ、御説明ヲ承ツテ見マシタガ、私ハ深ク左様ニ思フノデアリマス、殊ニ今日ノ漁村へ漁村ノ持ツ總テノ力ヲ擧ゲテ國家ニ捧げナケレバナラヌ時デアリマスシ、國家ノ戰力ト建設力ノ強化ト云フコトニ向ツテ

ハ、當然ニ努力寄與シテ行カナケレバナラ  
カラ農業團體ノ農業ノ定義ニ斯様ナコトガ  
勿論アツテハナリマセヌシ、用ヒラレテ居  
キマシテモ、是ハ寧ロ私ヘ誤植デアツテ欲  
イト、斯様ニ考ヘて居ツクノデアリマス  
○石黒政府委員 只今漁業ノ定義ニ付キマ  
シテ、營利ノ目的ヲ以テ云々ト云フコトガ  
問題ニナツテ居リマスガ、如何ニモ感ジト  
シテノ御話、御尤モニ拜聽致スノデゴザイ  
マスガ、ヤハリ是ハ此ノ團體ニ於ケル漁業  
會ニ加入スル人ノ範圍、又漁業トシテ考ヘ  
ラレル範圍ト云フモノハ、ヤハリ今日ニ於  
ケル漁業法ノ漁業トシテ觀念スル範圍ト一  
致致サナケレバナラナイト思フノデアリ  
マス、遊漁ダトカ娛樂、或ハ健康ノ爲ニ  
漁ヲスルト云フヤウナ者ハ入ラナイ、兎ニ  
一角一種ノ業務トシテヤル、之ニ依ツテ經濟  
的ナ一ツノ營ミヲヤル、直接ニハ其ノ漁ブ  
ヤル人自體ノ一ツノ利益ヲ擧ゲルノデアリ  
マスガ、延イテ是ガ國家社會ニ貢獻スルト  
云フノガ、總テノ今日ノ產業經濟ノ行キ道  
デアリマス、隨テ或ハ斯ウ云フ言葉ガ、大  
體ニ於テ漁業法モ隨分古イ法律デアリマス  
カラ、感じトシテ、以前ハ非常ニ當リ前ニ  
考ヘテ居ツタコトモ、段々トオカシクナル、  
斯ウ云フヤウナコトハ如何ニモアリ得ルコ  
トデアリマシテ、會ニ議場以外ニ於キマシ  
テモ、此ノ言葉ガ問題ニサレタコトモゴザ  
イマス、吾々ト致シマシテモ、將來研究ヲ  
致シテ結構デゴザイマスガ、此ノ定義ニ付  
テハ、從來判例其ノ他ニ依ツテモ此ノ漁  
業ノ範圍ト云フモノハ色々難カシイ見解方  
アリマシテ、色々ト今日マデ慣行的ニ決

敢ズ從來ノ漁業ニ於テノ範圍ト云フモノヲ  
其ノ儘ニ致シマシテ、將來適當ナ言葉ノ使  
ヒ途ト云フヤウナコトニ付テモ考ヘテモ宜  
シトイ思フノデゴザイマスガ、兎ニモ角ニ  
モ此ノ漁業法ハ、一面ニ於テ漁業關係ノ民  
法ノ特別法タルヤウナ性質モゴザイマスシ、  
單純ナル公法バカリデナシニ、私法上ノ特  
別法デモゴザイマスシ、餘程ソコラ邊ノ所  
モ慎重ニ致サナケレバナラナイト思ヒマス  
ノデ、此ノ場合ニ付キマシテノ御意見或ハ  
御感想ノ點、洵ニ御尤モニ存ジマスケレド  
モ、マア今日此ノ場合ハ、此ノ規定デ以テ  
御諒承願ヒタイト思フノデアリマス  
○岡田(啓)委員 御答辯ニ依リマスルト、漁  
業法ニアルカラト仰シヤルケレドモ、是ガ  
新舊對照農業團體法附則中關係法律改正  
條文ト云フ印刷物ニナツテ居リマスガ、此  
ノ中ニ「漁業法中左ノ通改正ス」ト改正致シテ  
居ル部分モアリマス、此ノ水產團體法ヲ御  
出しシニナルナラバ、サウ云ツタ古イ漁業法  
ニ規定シタ所謂自由經濟機構ノ時代ニ於ケ  
ル營利目的ノ觀念ト云フモノハ、此ノ際ハ  
一擲シテ、愈、國家ノ爲ニ率先挺身シテ、保  
健食糧ノ確保増産ニ努メナケレバナラヌノ  
デアリマス、何故一緒ニ之ヲ改メラレナカ  
ツタカラ追究セザルヲ得ナイ、私ハ繰返シ  
テ申シマスルガ、誤植デアツテ欲シイ、更  
ニ答辯ヲ戴キマシテモ、今ノ次官ノヤウナ  
答辯ナラバ載カヌデモ結構デス

濟、皇道水産業、漁業ト云フヤウナモノカ  
ラ行キマスルト云フト、一寸モ營利ヲ目的  
トシテト云フコトヘ、今日ノ世ノ中ニ於テ  
成立タナイコトデアリマスルカラ、是ハサ  
ウ云フ法規ダトカ行掛リニ因ハレズニ、即  
坐ニ削除シテ戴キタイト思フノデアリマス、  
營利ヲ目的トスト規定スルコトハ、全ク是  
ハ今日ニ於テハ營利主義デアリ、英米主義  
デアリ「ニダヤ」主義デアル、若シ一通リノ  
經濟學者ガ斯ウ云フコトヲ著書ニ書イタト  
シタナラバ、是ハ思想問題ノ大キナコトニ  
ナツテ來ルノデナカラウカト思フノデアリ  
マスガ、之ヲ當局ガ一時逃レノコトヲ仰シ  
ヤリ、又此ノ儘デ辛抱シテ吳レトカ、感ジ  
ノ問題ダトカ云フヤウナ御考ヘガアルトシ  
タナラバ、當局ノ「イデオロギ」モ相當考  
ヘナケレバナラスト思フノデアリマス、此  
ノ際思ヒ切ツテ、アツサリハツキリト削除  
シマス、斯ウ仰シヤル方ガ「番宣イ」（同感）  
ト呼ブ者アリ）御意見ヲ承リタイ

○石黒政局委員 先程申シタコトノ結局繰  
返シニナリマスガ、要スルニ漁業法ハ全般  
トシテ勿論公法デアリマスガ、私法トシテ  
此ノ業ニ關スル民法ノ特別法タル關係ニモ  
アリマシテ、例へば漁業組合ヲ漁業會ニ直  
ス、是ハ範圍ガ極メテ明確デアリマシテ、  
其ノ儘言葉ノ變化ト云フ位ノモノデアリマ  
スガ、ソコニ又自ラ一ツノ氣分モアリマス  
ケレドモ、唯從來此ノ漁業法デ漁業ノ範圍  
ニ擴大スルトカ云フヤウナ必要ハ恐ラクナイ  
ノダラウト思フ、要スルニ表現ノ問題ダラ  
ウト思ヒマス、ソレニ致シマスレバ先程申

シタヤウニ、一つノ私法的ナソコニ色々權利義務ノ關係、其ノ他ガ關聯シテ來ル問題デアリマスカラ、ソコデ相當ニ色々調べタ上、ナイトイケナイ譯デアリマス、此ノ問題ニ付キマシテハ、御承知ノ方モアリマセウガ、沿岸漁業關係ニ付キマシテ何等カソコニ團體的ナ改變ヲ加ヘテ、時代ニ即應スルヤウニ致シタイト云フヤウナコトハ、是昨年春以來業界ニ於テモ考ヘラレタコトデアリマシタケレドモ、愈、是ガ具體化スルマデニ政府ナリ或ハ全般ニ機ガ熟シテ参リマシタノハ、御承知ノヤウニ段々此ノ法律改正ノ機會ガ近付キマシタ時期ニ切迫シテアリマシタノデ、旁、致シマシテ、其ノ私法的ナ法律ノ擁護、其ノ他ノ相當考究十分ナル研究ヲ盡シテ居ラヌヤウナ譯デアリマシテ、ソレ等ノコトニ付キマシテハ、モウ少シ時日ヲ得タイト云フヤウニ考ヘマス、其ノ點ヲ申上げテ置キマス。

○濱地委員 困ツタモノデスネ、當局ハ極

メテ近キ將來ニ於テ此ノ字句ヲ削除スル意

思アリヤナシヤト云フコトヲ聽キタイ

○石黒政府委員 削除スルカト云フ御話デ

ゴザイマスガ、單純ニ削除ヲスルノハ、ソ

コニ又一つノ誤解ヲ生ズル虞ガアルノデア

リマシテ、一寸ヤハリソコニ又考ヘナケレバナラヌ所ガアルト思フノデアリマス。

○井野國務大臣 此ノ字句ハ御承知ノ通り

漁業法以來使ハレテ居ル字句デアリマシテ、

デアリマスカラ、此ノ言葉ガ適當デアルカ

ドウカハ、一つ漁業法ノ改正モ其ノ中ニハ

考ヘナケレバナリマセヌカラ、其ノ際ニ併

セテ考ヘサシテ戴キタイト思ヒマス

○濱地委員 農林大臣ハ此ノ言葉ハ現在ノ用語トシテハ適當デナイト云フコトハ同感

デゴザイマスネ

○井野國務大臣 法律上ノ用語デアリマスカラ、所謂營業トシテ實際ニ漁業ヲスル者、又遊漁ヲスルヤウナ者、サウ云フモノヲ一緒ニ規定ノ出來ナイ色々關係ガ漁業法以

來アルノデアリマス、ソレデ斯ウ云フ區別

ヲシテ居リマス、併シ今日ハ營利ヲ目的トスルト云フ氣持ハ、餘程時代的ニ見ルト考

ヘナケレバナラヌ言葉デアリマスガ、是ハ

漁業法ヲ改正スル際ニ一ツ一緒ニ考ヘサシ

テ戴キマセヌト、片方ダケ削ツテ片方ダケ

残ルト云フコトニナルト、法律上ソコニ問

ゲタ譯デアリマス

○岡田(敬)委員 農林大臣ハサツキオイデニナリマセヌデシタガ、私先達テノ大臣ノ濱地氏ノ質問ニ對スル答辯ヲ承ツテ居リマシタコトヲ前提トシテ、此ノ問題ヲ先刻來緯返シテ御尋ねシテ居ツタノデアリマスガ、併シ緯返シテ申スコトハ避ケタイト思ヒマス、ケレドモ、是ハ漁業法ニ假ニアリマシテモ、ココニ營利ノ目的ヲ以テト云フコトヲ強ヒテ明記サレナケレバナラヌト云フ理由ヲ、ドウモ私ハ發見スルノニ苦シムノデアリマス、漁業法ノ根本的改正ト云フモガ今度必要デアツテ、ソレガ出來ル時デナイト出來ナイト云フヤウニ仰シヤルノデアリマス、漁業法ノ根本的改正ト云フモガ古イトカ、古キ時代落デ所謂漁業權ノ分前ヲ持チタイ爲ニ入ル者ガアルノデアリマス、サウ云フ者フハツ

マシテヘ、從來漁業組合ガ出來マス際ニ、

非常ニ色々問題ガアツタノデアリマス、現

在ノ漁業組合ノ狀態ヲ見マシテモ、唯單ニ

御答辯ヲ伺ツテモ、ドウモ此ノ點ハ承服シ

ルノデアリマスカラ、ソレデ一ツ御満足ヲ

戴キタイト思フノデアリマス

○岡田(啓)委員 緯返シテ聽キマシテモ、又今ノ次官ノ答辯ヲ承リマシテモ、大臣ノ御答辯ヲ伺ツテモ、ドウモ此ノ點ハ承服シ難イノデアリマスルシ、新團體法ヲ制定實施サレルニ當ツテ、スクノ如キ不名譽ノ文

字ハ是カラ削除セラルベキ筋合ナリト云フ

風ニ考ヘテ居リマスガ、私ハ私ノ此ノ信念ヲ披瀝致シマシテ、質問ヲ打切りマス

○濱地委員 關聯シテ極ク簡單ニ……今ノ農林大臣ノ御說明デ大體御意向ハ分ツタノデアリマスルケレドモ、参考ニ私ノ考ヘテ居ル點ヲ申上げタイノデアリマス、兎ニ角營利ノ目的ヲ以テ何々業トスルヲ謂フト云

フ此ノ條文ガアルノデゴザイマスガ、例ヘ

バ水產動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ

謂フ、斯ウ言ツタラ魚釣リニ行ツテモ之ラ業

トシテ居ルノデハナイ、是ハ遊漁ニ違ヒナ

業團體法ニ營利ノ目的ヲ以テ云フコトヲ挿入シナケレバナラヌト云フ理由ガ、ドウモ首肯シ得ナイノデアリマス、殊ニ先刻來申シマスル通サ、是ハ沿岸漁業ヲ對象トシタルヤウニ致シタイト云フヤウナコトハ、是昨年春以來業界ニ於テモ考ヘラレタコトデアリマシタケレドモ、愈、是ガ具體化スルマデニ政府ナリ或ハ全般ニ機ガ熟シテ參リマシタノハ、御承知ノヤウニ段々此ノ法律改正ノ機會ガ近付キマシタ時期ニ切迫シテアリマシタノデ、旁、致シマシテ、其ノ私法的ナ法律ノ擁護、其ノ他ノ相當考究十分ナル研究ヲ盡シテ居ラヌヤウナ譯デアリマシテ、ソレ等ノコトニ付キマシテハ、モウ少シ時日ヲ得タイト云フヤウニ考ヘマス、其ノ點ヲ申上げテ置キマス。

○濱地委員 困ツタモノデスネ、當局ハ極メテ近キ將來ニ於テ此ノ字句ヲ削除スル意

思アリヤナシヤト云フコトヲ聽キタイ

○石黒政府委員 削除スルカト云フ御話デ

ゴザイマスガ、單純ニ削除ヲスルノハ、ソ

コニ又一つノ誤解ヲ生ズル虞ガアルノデア

リマシテ、一寸ヤハリソコニ又考ヘナケレバナラヌ所ガアルト思フノデアリマス。

○井野國務大臣 此ノ字句ハ御承知ノ通り

漁業法以來使ハレテ居ル字句デアリマシテ、

デアリマスカラ、此ノ言葉ガ適當デアルカ

ドウカハ、一つ漁業法ノ改正モ其ノ中ニハ

考ヘナケレバナリマセヌカラ、其ノ際ニ併

セテ考ヘサシテ戴キタイト思ヒマス

○濱地委員 農林大臣ハ此ノ言葉ハ現在ノ用語トシテハ適當デナイト云フコトハ同感

デゴザイマスネ

○井野國務大臣 法律上ノ用語デアリマスカラ、所謂營業トシテ實際ニ漁業ヲスル者、又遊漁ヲスルヤウナ者、サウ云フモノヲ一

緒ニ規定ノ出來ナイ色々關係ガ漁業法以

來アルノデアリマス、ソレデ斯ウ云フ區別

ヲシテ居リマス、併シ今日ハ營利ヲ目的トスルト云フ氣持ハ、餘程時代的ニ見ルト考

ヘナケレバナラヌ言葉デアリマスガ、是ハ

漁業法ヲ改正スル際ニ一ツ一緒ニ考ヘサシ

テ戴キマセヌト、片方ダケ削ツテ片方ダケ

残ルト云フコトニナルト、法律上ソコニ問

ゲタ譯デアリマス

○岡田(敬)委員 関聯シテ極ク簡單ニ……今ノ農林大臣ノ御說明デ大體御意向ハ分ツタノ

ノデアリマスルケレドモ、参考ニ私ノ考ヘテ居

ル點ヲ申上げタイノデアリマス、兎ニ角營

利ノ目的ヲ以テ何々業トスルヲ謂フト云

フ此ノ條文ガアルノデゴザイマスガ、例ヘ

バ水產動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ

謂フ、斯ウ言ツタラ魚釣リニ行ツテモ之ラ業

トシテ居ルノデハナイ、是ハ遊漁ニ違ヒナ

セテ考ヘサシテ戴キタイト思ヒマス

○井野國務大臣 此ノ字句ハ御承知ノ通り

漁業法以来使ハレテ居ル字句デアリマシテ、

デアリマスカラ、此ノ言葉ガ適當デアルカ

ドウカハ、一つ漁業法ノ改正モ其ノ中ニハ

考ヘナケレバナリマセヌカラ、其ノ際ニ併

セテ考ヘサシテ戴キタイト思ヒマス

○濱地委員 關聯シテ極ク簡單ニ……今ノ農林大臣ノ御說明デ大體御意向ハ分ツタノ

ノデアリマスルケレドモ、参考ニ私ノ考ヘテ居

ル點ヲ申上げタイノデアリマス、兎ニ角營

利ノ目的ヲ以テ何々業トスルヲ謂フト云

フ此ノ條文ガアルノデゴザイマスガ、例ヘ

バ水產動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ

謂フ、斯ウ言ツタラ魚釣リニ行ツテモ之ラ業

トシテ居ルノデハナイ、是ハ遊漁ニ違ヒナ

セテ考ヘサシテ戴キタイト思ヒマス

○井野國務大臣 此ノ字句ハ御承知ノ通り

漁業法以来使ハレテ居ル字句デアリマシテ、

デアリマスカラ、此ノ言葉ガ適當デアルカ

ドウカハ、一つ漁業法ノ改正モ其ノ中ニハ

考ヘナケレバナリマセヌカラ、其ノ際ニ併

セテ考ヘサシテ戴キタイト思ヒマス

○井野國務大臣 此ノ字句ハ御承知ノ通り

漁業法以来使ハレテ居ル字句デアリマシテ、

デアリマスカラ、此ノ言葉ガ適當デアルカ

ドウカハ、一つ漁

リマス  
イノデアリマスカラ、此ノ點ヲ一つハツキ  
リト申上ゲテ御参考ニシタイト思フノデア

○加藤(知)委員 只今ノ御答辯ヲ承リマス  
ト、必ズシモ減少シテ居ラヌ、却テ増加シ  
テ居ルト云フヤウナ御答辯ニ伺ツタノデア

堤ガニツモ出來タノデアルガ、其ノ堰堤ニ  
ハ分水ノ當時、特ニ鮭ヤ鱒ノ上ルノヲ便ナ  
ラシムル爲ニ魚道ガ、設ケラレタノデアリ

獲高ハ約十万ニ近イ所ノ鮭ガ獲レル譯デ、  
其ノ獲ツタ鮭ノ卵ヲ人工孵化ヲサセ之ヲ上  
流へ放ツコトニ致シタノデ之ニ依リマシテ

○加藤(知)委員 私ハ漁業ニ付テハ全ク素人デアリマスカラ、實ハ御尋ネスルコトモ極メテ幼稚ナ事柄デアリマシテ、又一地方ニ偏シタ問題ノヤウニモ考ヘマス、ケレドモ、併シナガラ是非此ノ場合ニ當局ノ御意見ノアル所ヲ伺ツテ置キタイト考ヘル次第デゴザイマス、近年川魚ガ著シク減少ヲ致シテ行クヤウニ思フノデアリマス、ソレニハ色々ナ原因ハアリマセウガ、其ノ原因ニ付テ一ツ御伺ヒラシテ見タイコトハ、例ノ鮭ヤ鱈ノ減少デアリマス、是ハ時局前ニ於キマシテハ、殆ド各家庭ニ容易ク一尾ヤ二尾ハ皆購メラレテ、食膳ニ供セラレタノデアリマスルガ、昨今ニ至リマシテハ殆ドソレガ不可能ナ状態ニナツテ居ルコトハ、能ク皆様モ御承知ノ通りデアリマス、其ノ減少ノ原因ガ一體何處ニアルノデアルカト云フコトヲ先づ以テ茲ニ御伺ヒラ致シタイノデアリマス

リマス、ソレガ今申上ゲマスヤウニ、各家  
庭ニ殆ド十分ニ配給ガ出来テ居ラナイ、ソ  
レハドウ云フ原因デアリマセウカ  
○寺田政府委員 最近ニ於ケル各家庭ヘノ  
鮭鱈ノ配給ガ必ズシモ潤澤デナイト云フ御  
話デアツタノデアリマスガ、内地及ビ外地  
全體ヲ通ズル鮭鱈ノ漁獲ニ付キマシテハ、  
是ハ努メテ減少シナイヤウニ心掛ケテ參ツ  
テ居ル次第デアリマス、隨テ鮭鱈ノ漁獲ニ  
付キマシテハ、年ニ依ツテ相當ノ増減ハ必  
ズシモナイトハ申シマセヌケレドモ、鮭鱈  
ヲ通ジテ考ヘマスト、大體同ジヤウナ生産  
ヲ略、持続シテ參ツテ來テ居ルノデゴザイ  
マス、唯各家庭ニ對スル鮭鱈ノ配給ガ、從  
來ノ如ク潤澤デナイカノ如ク感ゼラレマ  
スノハ、魚介類全體ノ減少ノ影響ヲ受ケテ  
居ルノデハナイカト私ハ考ヘテ居リマス、  
鮭鱈類、ダケノ配給カラ申シマスト、是ハ從  
來ト比ベマシテ必ズシモ減少シテ居ルモノ  
トハ思ヘナイノデアリマス  
○加藤(知)委員 ドウモ只今ノ御答辯ダケ  
デハ洵ニ諒解ニ苦シムノデアリマス、ドウ  
カソレヲ數字的ニ一ツ、後デ宜シイカラ御  
示シヲ願ヒタイト思ヒマス、ソコデ私ガ御  
尋ネ致シタイト思フコトハ、新潟縣ノ信濃  
川ノ鮭ノ問題デアリマスガ、近年餘程減少  
ヲシテ居ル、是ハ明カナル事實デアリマス、  
デアルカト云フト、大河津ノ分水デアリマ  
ス、其ノ分水ノ結果、寺泊ノアノ海岸ニ堰

マス、而モ其ノ設ケラレタ魚道ガ餘りニ急  
勾配デアルガ爲ニ、ツイ満足ニ鮭ヤ鱈ガ上  
ラナイ、殆ド上ラヌト言ツテ宜シイ、デア  
リマスカラシテ、何トカ其ノ魚道ヲ直シテ  
貰ヒタイト云フコトヲ内務省ニ向ツテ色々  
陳情ヲ致シタコトモアリマスケレドモ、餘  
リニ費用ガ掛ルノデツイ其ノ儘ニナツテ居  
ル譯デアリマス、ダガ併シナガラ、假令其  
ノ費用ガ餘計ニ掛リマシテモ、食糧問題ト  
云フ立場カララ考ヘマスト云フ、是非其ノ  
魚道ヲ直スノガ本當デヘナイカ、斯様ニ考  
ヘテ居リマス、其ノ點ニ付テノ御意見ノア  
ル所ヲ伺ヒタイノデアリマス、ソコデ其ノ  
寺泊町ノ漁業者ハ堰堤ノ下ヘ澤山集ツテ來  
ル鮭ヲ、其ノ儘實ハ獲ラズニ置クト云フコ  
トガ、洵ニドウモ惜シイト云フヤウナ處カ  
ラ、ツイ禁漁區ノ禁令ヲ破ツテ漁獲ヲ致シ、  
年々多數ノ犯罪者ヲ出シテ殆ド全漁業者ガ  
犯罪者ニナラントシツツアルヤウナ狀態デ  
アツタノデアリマス、所ガ御承知ノヤウニ、  
鮭ハソレヲ獲ラズニ置イテソレデ宜シイ  
カト云フト、此ノ上ルコトノ出來ナイ鮭ハ、  
空シク海洋ノ方へ引戻シテ、其ノ儘死ンデ  
リマス、デアリマスカラシテ、是ハ獲ラセ  
ル方ガ宜シノデアリマス、所ガソレヲ禁  
漁區ニシテ中々ソレヲ獲ラヌダケノ損デア  
リマス、デアリマスカラシテ、是ハ獲ラセ  
マス、ソコデ私共ハ土地ノ漁業者ヲ代表シ  
テ縣當局ニ再三再四ノ折衝ヲ致シマシタ結  
果、漸ク近年ハ期間ヲ定メテ之ヲ獲ラセル  
所ト云フヤウナコトニナツテ居タノデアリ  
コトニシタノデアリマスガ、其期間内ノ漁

信濃川ノ鮭ノ漁獲高モ相當回復へ致シテ居リマスガ、併シナガラ解禁期間前後ノ鮭全部ヲ獲ラセルコトニ致シマスレバ、少クトモ十二、三万ヤ十五、六万ノ鮭魚ハ獲レルニアラウト言ヘレテ居リマス、尤モ實際ハドノ位ノ數ニナルカ分リマセヌ、分リマセヌケレドモ、左様ニ土地ノ者ハ申シテ居ルノデアリマスカラ、斯様ナ所ヲ禁漁區ニシテ置ク必要ハナイデハナイカト私ハ左様ニ考ヘルノデアリマス、ソレヲ徒ニ禁漁區ニシテ置イテサウシテミスヽ多數ノ鮭ヲ海洋ノ屍トシタ處デ、國家ノ爲ニ何ノ役ニモ立タヌト考ヘマスノデ、食膳ニ上ボセル魚類ノ段々減ジ行ク今日、寧ロ全部ヲ解禁サセルヤウニセラレテハ如何デアルカ、全部ヲ解禁シテ其ノ採卵ヲ人工孵化サセテ上流ニ放テバ、鮭ノ生産増殖上ドレダケ有利デアルカ分ラヌト思フノデアリマス、ソコデ昨年アタリハ百三十万尾位ノ鮭ヲ孵化サセテ上流ヘ放流シテ居リマスガ、今度ソレヲ全部解禁シマスレバ、百七十万尾乃至ハ二百万尾位ノ人工孵化ハ容易ニ出來ルト云フコトデアリマス、之ニ付テノ當局ノ御考ヘバ、如何デアリマセウカ、此ノ點一寸御伺ヒシテ置キタイト思フノデアリマス

○寺田政府委員 川ヘ上ツテ参リマス鮭ノ遡上ノ爲ノ堰堤ヲ設ケテ居ルノデアリマスガ、此ノ堰堤ニ付キマシテモ十分デナイノモアラウカト思ヒマスガ、其ノ魚道ノ完備ニ付キマシテハ、出来ルダケ努メテ參ツテ居リマスガ、併シナガラ解禁期間前後ノ鮭全ドノ位ノ數ニナルカ分リマセヌ、分リマセヌケレドモ、左様ニ土地ノ者ハ申シテ居ルノデアリマスカラ、斯様ナ所ヲ禁漁區ニシテ置ク必要ハナイデハナイカト私ハ左様ニ考ヘルノデアリマス、ソレヲ徒ニ禁漁區ニシテ置イテサウシテミスヽ多數ノ鮭ヲ海洋ノ屍トシタ處デ、國家ノ爲ニ何ノ役ニモ立タヌト考ヘマスノデ、食膳ニ上ボセル魚類ノ段々減ジ行ク今日、寧ロ全部ヲ解禁サセルヤウニセラレテハ如何デアルカ、全部ヲ解禁シテ其ノ採卵ヲ人工孵化サセテ上流ニ放テバ、鮭ノ生産増殖上ドレダケ有利デアルカ分ラヌト思フノデアリマス、ソコデ昨年アタリハ百三十万尾位ノ鮭ヲ孵化サセテ上流ヘ放流シテ居リマスガ、今度ソレヲ全部解禁シマスレバ、百七十万尾乃至ハ二百万尾位ノ人工孵化ハ容易ニ出來ルト云フコトデアリマス、之ニ付テノ當局ノ御考ヘバ、如何デアリマセウカ、此ノ點一寸御伺ヒシテ置キタイト思フノデアリマス

経費ガ、堰堤ヲ造リマスノヲ阻害スル程度ニ酷クナリマスモノニ付テハ、魚道以外ノ方法ニ依リマシテ、例ヘバ堰堤ソ下ニ溜ル魚ヲ堰堤ノ上ニ運ブトカ云フヤウナコトモ計畫致シマシテ、出來ルダケ川ニ上ツテ参リマス鮭鱈ノ保護ヲ圖ツテ來テ居ル次第デアリマス、隨ヒマシテサウ云フヤウナ關係カラ、川ニ上ツテ參リマス鮭鱈類ヲ保護シマス爲ニ、堰堤ノ上下ニ於キマシテハ鮭鱈ノ漁業ヲ禁止シテ居ルノガ大體原則トナツテ居リマス、是ハヤハリ不完全ナガラモ魚道ガアリマスト、其處ヘ上ツテ參ル鮭鱈類ヲ保護スルコトガ何トシテモ大切デアリマスノト、サウヤツテ保護シマス結果、其ノ川ヘ上ツテ來ル鮭鱈類ヲ何時マデモ長ク續カセル、一度ニ獲リ盡シテシマヒマスト、ソレデ後カラ上ツテ來ル種ガナクナル譯デアリマスカラ、サウシテ成ベク其ノ川ヘ上ツテ來ル鮭鱈ヲ保護スルト云フ考ヘヲ持ツテ居ルノデアリマス、尙ホ獲レマシタ鮭鱈ノ卵ヲ孵化放流致シマスコトハ、是ハヤハリ其ノ川ヘ上ツテ參リマス鮭鱈ノ數ヲ維持スル上カラ言ツテ大切ナコトデアリマスノデ、是亦併セテ常ニ心掛ケテ居リマシン、之ニ對スル助成モ怠ラズヤツテ參ツテ居ル次第デアリマス、サウ云フ方面ニ於キマシテハ、ノデ、原則ト致シマシテ川ノ堰堤ニ設ケテアリマス魚道ノ周邊ニ於キマシテハ、之ヲ禁漁區ト致シテ參ツテ居ルノデアリマス、併シ其ノ上下ヲ離レタ相當ノ箇所ニ於キマシテハ、必ズシモ禁漁區ヲ設ケル必要モアリマセヌノデ、サウ云フ方面ニ於キマシテハ川ノ實情ニ依リマシテ、自由ニ獲ルコトモ出來ルヤウニ致シテ居ルノデアリマス、更

等モアラウカト思ヒマスカラ、實情ノ變化等ニ付キマシテハ、能ク調査致シマシテ、其ノ變化ニ對處スル措置ヲ講ジテ參リタイト思ヒマス  
○東郷委員長 加藤サン、一寸伺ヒマスガ、アナタノ御質問ハマダ長ウゴザイマスカ  
○加藤(知)委員 イヤ、直キ済ンデシマヒマス  
○東郷委員長 ソレデハ簡単ニ……  
○加藤(知)委員 近來砂防工事トシテ堰堤ヲ持ヘル、其ノ堰堤ガ——其ノ堰堤ニモ依リマスガ、殆ド魚類ノ上ルコトノ出來ナイ堤堤ガ出来テ居ル、ソレガ爲ニ川魚ハ——鮭鱈バカリデハナイ、總テノ川魚が殆ドサウデアリマスガ、此ノ爲ニ根絶ヤシニナルヤウナ魚族ガ少クナインデアリマス、デアルカラ是ハ農林省ト内務省トガ互ニソコヲ能ク話シ合ツテ、堰堤ヲ持ヘル場合ニハ、魚族ノ保護ト云フ上カラ魚梯ヲ設ケサセルト云フコトヲ決メラレタラドウカ、内務省ノ方カラ言フト、唯堰堤ヲ持ヘサヘスレバ宜イト云フコトデアルカラ、申譯のニ魚道ヲ持ヘテ、實際ニ役ニ立タナイ魚道ガ多イ、新潟縣ノコトダケヲ申上げテ甚ダ相濟ミマセヌガ、全國ノ上カラ、申上げテモ左様ナノガ甚ダ多カラウト思フノデアリマス、ソコデ只今ノ鮭ノ問題デアリマスガ、禁漁區ニシテ置ク理由ハ魚族ノ保護云々ト申サレマスケレドモ、鮭ハ堰堤ノ處マデ上ツテ來テ、ソレガ其ノ上ヘ上ボルコトガ出来ナケレバ、海洋へ戻ツテ空シク海底ノ屍トナルモ能ク御調査ナサル必要ガアルデハナイ

之ガ蕃殖ヲ圖ラウト云フ御考ヘガアルナラ  
バ、形ダケニ因ハレヌ方ガ宜イト思フ、魚  
道ト云フ形ダケノモノヲ持ヘテ満足シテ居  
ラルルヤウデハ駄目デアリマス、保護ニハ  
ナリマセヌ、デアルカラ此ノ點ヘ、農林大  
臣モ能ク御聞キ下サイマシテ、内務省ト十  
分交渉セラレテ、爾後砂防工事等ニ於テ堰  
堤ヲ持ヘル場合ニハ、必ズ農林省ト立會ノ  
上ニ持ヘサセル、持ヘタモノハ實用ニ適ス  
ル、魚族ノ上ルノニ差支ナイヤウニスル、  
斯ウ云フコトニシテセラルルコトヲ私へ切  
望致シマス、魚族保護ト云フコトヲ申サレ  
マシタノデ以上ノ事ヲ申上ゲマシタガ、ド  
ウカ大河津分水堰堤下ニ集マル鮭ノ問題ニ  
付テハ、當局ニ於カレマシテモ十分御調査  
下サイマシテ、私ガ只今申上ゲタルコトニ於  
テ間違ナイト云フコトガ御分リニナリマシタ  
ナラバ、全部ノ解禁ヲ直チニ斷行セラレタ  
イ、之ヲ解禁セラレテモ魚族保護ノ上ニ、  
決シテ差支ヘナイト云フコトヲ茲ニ重ネテ  
申上ゲテ十分ノ御考ヘヲ煩ヘシタイト思ヒ  
マス、私ノ質問ハ是デ終リマス

家總動員法ニ基キマスル水産業統制令ニ依ツテ別個ノ機關ニ依ツテ、其ノ統制ヲ受ケテ行クコトニ相成ルト思フノデアリマス、斯クノ如ク同ジク水産業ト申シマシテモ、水産業統制令ノ指ス水産業ノ内容ト、本法ノ規定スル所ノ水産業ナルモノハ、其ノ内容ガ變ツテ來ルヤウニ思フノデアリマス、斯クノ如キ形ガ果シテ好マシイカドウカト云フコトハ、是ハ別問題デゴザイマシテ、此ノ際私ハ其ノ點ヲ議論スルノデハゴザイ、マセヌガ、大體戰時下ニ於ケル海洋漁業ノ統制ガ、國家總動員法ニ基イテ水産業統制令ヲ以テ行ハレ、沿岸漁業ノ體制ノ確立ハ此ノ法律ニ依ツテ行ハレマシタコト、其ノ一ハ總動員法ニ依リ、「此ノ法律ニ依ラレマスル、ソレハドウ云フ理由ガアルノデアルカ、定メシ相當ノ御理由ガアルコト」思ヒマス、ソレカラ又總動員法ニ基イテ出来マシタモノハ、ヤハリ是ヘ我ガ國水産業ノ恒久的ナ體制デアルカ、是ハ戰時中國家總動員ノ目的ノ爲ニ、其ノ必要ノアル間ノ形態ナノデアルカ、總動員法ハ戰時事變ニ際スル國家總動員ノ必要上制定サレタ法律デアルケレドモ、此ノ法律ニ基イテ出來タ機關ハ、是ハ恒久的ノ體制デアルノカ、詰リ總動員法ニ基イタ海洋漁業ノ方ノ體制モ此ノ法律ニ基イテ行ク、日本ノ水産業ノ中核的ナツノ體制モ將來永久ニ、是ハ相平行シテ二ツノモノガ併立シテ行クノデアルカ、或ハ將來ニ於テハ變ツタ形ニナツテ行クノデアルカ、是等ノ點ニ付テ先づ御伺ヒ致シタイト思ヒマス

時局ニ即應シマシテ、色々ノ觀點カラ急速ニ之ヲアノ體制ニ持ツテ行ク必要ガアリマシタノデ致シタノデアリマス、ソレト同時ニ沿岸漁業ノ方モ一緒ニヤリタイト私ハ思ツタノデアリマスガ、御承知ノヤウニ沿岸漁業ノ關係ハ皆法律關係ニナツテ居リマスノデ、總動員法デハドウニモ形態へ變ヘラレナイノデアリマス、デアリマスカラ法律ノ改正ヲ俟チマシテ、併セテ是ト一緒ニ行ツテ行クト云フコトガ適當デアルト認メテ今回法律ノ改正ヲシタノデアリマス、然ラバ將來之ヲドウ持ツテ行クカト申セバ、今日ハ固ヨリ戰時下ニ於テノ仕事ノ重要性カラ、色々ノ機構ナリ組織ハ考へテ行カナケレバナリマセヌカラ、現在ノ狀態ニ於テ遠洋ト沿岸、斯ウ云フニ本ノ形態ヲ持ツテ致シマシタ上デヘ、又何カ結付キヲ考ヘタイト思ツテ居リマス、是ハ法制デナシニ何等力ノ結付キヲ考ヘタイト思ツテ居リマスガ、此ノ體制ハ戰後マデ續クカドウカト云フコトハ、暫ク戰爭状態ノ推移ニ依リマシテ、其ノ時ニ更ニソレヲ繼續スル必要ガアレバ繼續シマスケレドモ、又元ノ形ニ直シタ方ガ適當デアレバ直スト云フコトモアリ得ルト思ヒマス、今戰後ノ狀態マデ此處デドウスルト云フコトヘ中々申上ダラレナイノデハナイカト思ヒマス。

ヒシタノデアリマシテ、大臣ノ御意圖ハ、  
恆久的ナ體制トシテ確定シタモノデハナイ、  
斯ウ云フヤウナ御意味デアツタヤウニ了解  
致シマシタケレドモ、私人申上ゲマシタ意  
味ガ極メテ微妙ナ意味デゴザイマスノデ、  
誤解シテ戴カナイヤウニ特ニ念ヲ押シテ置  
キマス、ソコデ國家總動員法ニ基ク帝國水  
產統制株式會社ト、本法ニ基ク特ニ中央水  
產業會、是等ノ持ツ性格ノ點ヲ相對照致シ  
マシテ、性格ヲ明カニシテ置キタイト私ハ  
思フノデアリマス、大臣ノ御答撝ニ依リマ  
スルト、實ハ沿岸漁業モ國家總動員法デヤ  
リタカツタノダ、併シナガラは法律關係  
ガ色々煩瑣ナノデ、總動員法ヲ以テシテハ  
ドウニモナラナイカラ、此ノ立法ニ俟ツタ  
ノデアル、斯ウ云フ意味ノ御答ヘヲ伺ツタノ  
デアリマス、ソコデ目的ハ大體帝國水產統制  
株式會社ガ、水產統制令ニ依ツテ生レマシ  
タノト同ジ目的モ亦茲ニ含ンデ居ル、當然斯  
様ニ解スベキデアルト私ハ思フノデアリマス、  
ソコデ帝國水產統制株式會社ハ水產統制令  
ニ依リマシテモ——其ノ方ノ條文カラ申シテモ  
コトヲ以て目的トル「トアルノデゴザイマス、  
ソコデ私ガ御伺ヒシタイノハ「水產業ノ綜  
合的統制運營ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營  
ム」トアツテ、此ノ會社ハ必要ナル事業ヲ  
制運營ハ此ノ會社自體ガ行フノデハナクテ、  
之ヲ綜合的ニ統制運營スル主體ヘ別ニアツ  
テ、其ノ事業ヲ營ムミガ此ノ會社デアルカ、  
又ハ此ノ會社自體ガ命令ノ定ムル水產業ニ

○井野國務大臣 帝國水產統制會社ハ海洋漁業、殊ニ命令ヲ以テ規定シテ居リマス漁業ニ對スル所謂漁業計畫ト云フモノハ其處デ立テマス、隨テ其ノ意味ニ於テノ統制ハ其ノ會社ガスル譯デアリマスガ、其ノ外ニ綜合的運營ヲシマス爲ノ必要ナ事業モ營ム、斯ウ云フ風ニ私ハ了解シテ居リマス。

○西川委員 大體私ガ御伺ヒシタイ意味ハ、此ノ會社設立後ニ於ケル所謂海洋漁業ノ綜合的運營ノヤリ方、ソレハ大體此ノ會社ニサシメラレルノデアル、即チ言葉ヲ換ヘテ見マスト、此ノ會社ニ依ツテ業者ノ自主的創意ノ下ニ、其ノ責任ノ下ニ於テ海洋漁業ノ綜合的運營ヲ行ハシメラルルノデアルカ、其ノ綜合的運營ハヤハリ官廳ノ方デ握ツテ居ラレテ、ソレニ必要ナル業務ダケ此ノ會社ニ行ハセルノカ、會社ハ其ノ業務ヲ行フ一つノ代行機關ノ如キモノニアツテ、自主性ハアルノカナインカ、綜合的運營其ノモノハ依然下シテ從來ノ如ク官廳デ握ツテ御行キニナルノカドウカト云フ點ヲ御伺ヒシタカツタノデアリマス

ソレカラ水產統制令ノ指シマスル水產業ノ綜合的統制運營ノ中ニヘ、此ノ法律ノ指ス漁業及ビ水產業ハ尙マナイノデアルカ、是ハ全然別デアルカト云フ點ヲ先づ御尋ね致シマス

○井野國務大臣 先程申シマシタヤウニ、只今ノ立テ方ガ遠洋ト沿岸トニ分ケテ考ヘテ居リマス、隨テ帝國水產統制會社ハ沿岸漁業ノ方ハ致サナイト云フ建前ニナツテ居リマス

○井野國務大臣 固ヨリ水産業全般ニ付キ  
マシテハ、水產局ト申シマスカ、農林省ガ  
今日ハ計畫指導ヲ致シテ居ル、隨テソレ  
等ノ點ニ付テ水產局ハ積極的ニ遠洋、沿岸  
漁業兩方ニ向ツテ指導シ、計畫ヲ致シテ參  
ルノデアリマスガ、遠洋部面ニ於キマシテ  
ハ、今回出來タ帝國水產統制株式會社ニ或  
ル程度ノ自主的ナ計畫ヲサセマシテ、サウ  
シテソレヲ指導監督シテ行クト云フ建前ニ  
農林省ガ立ツテ行ク、斯ウ御諒解ヲ願ヒタ  
イト思ヒマス

○西川委員 只今御答ヘノ海洋漁業ニ於ケ  
ル帝國水產ノ如キ地位ヲ、沿岸漁業ニ於テ  
ハ本法ニ於ケル中央水產業會ニ御與ヘニチ  
ルノデアルカドウカ、沿岸漁業ニ於ケル所  
謂綜合的統制運營ナリ其ノ他ノ事柄ハ、是  
ハ海洋漁業ノ如クニ纏マツタモノデアリマ  
セヌカラ、海洋漁業ノ通リニハ私行カナイ  
グラウト思フノデアリマス、併シナガラ大  
體ノ方針トシテハ左様ナ點ニ其ノ方針ヲ確  
立シテ居ラレルカドウカ、假ニ方針ガ其處  
ニ確立サレテアルトシテ、實際ニ於テハ中々  
海洋漁業ノヤウニ纏マツテ居ナイノデ、海  
洋漁業ノ通リニハ行カナイト云フコトガア  
ルト致シマスルナラバ、ソレヲ何トカ其ノ  
困難ナル事情ヲ克服シテモ、中央水產業會  
ヲシテ斯カル機能ヲ營マシメル爲ニドウ云  
フ手ヲ御打チニナツタカ、省ノ方針トカ、  
自分ハ左様ニ思フノダトカ云フヤウナコト  
デナシニ、具體的ニ水產局ハ本法提出ト共  
ニ、ソレ等ノ中央水產業會ヲシテ斯カル機  
能ヲ發揮セシメル爲ニ、具體的ナ手ヲ何カ  
御打チニナツテ居ルカドウカ、此ノ點ヲ御

Digitized by srujanika@gmail.com

○寺田政府委員 中央水産業界ハ水産業團體ノ中央機關トシテ、ソレト、市町村水產漁業會、其ノ上ニ道府縣水產漁業團體ヲ構成員居ル、水產業團體法ニ規定サレテ居リマスヤウナ水產業ノ指導獎勵、其ノ他ノ仕事モスルノデアリマス、更ニ此ノ法案ノ六十七條デ準用サレテ居リマス規定カラ申シマシテモ、漁業ノ統制ニ關スル規定ヲ定メテ、行政官廳ノ認可ヲ受ケルト云フ規定モ準用シテ居ルノデアリマス、サウ云フ所カラ法文ノ中ニ於テモ、中央水產業會ガソレバ、系統ノ各團體ニ對スル指導等ニ付キマシテ考慮サレテ居ルノデアリマス

アリ、其ノ他ノ保護特典モ與ヘ得ルノデア  
リマシテ、サウ云フ法律的ノ根據ニ基イテ  
デゴザイマセウガ、帝水ニ對シマシテハ四  
分ノ配當利息ノ金額ニ相當スル保證ヲナス  
コトモ、豫算外國庫負擔トナル契約ヲ此ノ  
議會ニ提出サレテ居ルヤウニ聞イテ居リマ  
ス、又帝水ガ其ノ事業ヲ行ヒマスル爲ニ借  
入金ヲ致シマスル際ニハ、利子ノ補給等ノ  
コトモ考ヘテ居ルヤウニ聞イテ居ルノデア  
リマスルガ、是等ノコトハ帝國水產業會ヲ  
眞ニ國家目的ニ即應シテ、水產總動員體制  
ノ確立ヲ圖リ、其ノ運營ニ必要ナル業務ヲ  
行ハシメルノニハ當然ノコトデアラウト思  
フノデアリマス、同時ニ左様ナ風デアレバ、  
ヤハリ沿岸漁業ニ於キマシテモ非常ニ困難  
ナル、而モ零細ナ漁業ガ、海洋漁業ノヤウ  
ナ相當資本力ヲ以テ經マツタモノデナイモ  
ノヲ統制致シマシテ、サウシテ是ニ對シ  
水產總動員體制ノ確立ヲシテ行クト云フ大  
キナ使命ヲ之ニ持タセマスナラバ、只今舉  
ゲマシタル如キ具體的施設カ何カナクテハ  
ナラヌト思ヒマスガ、左様ナコトニ付テ何  
カ措置サレタ點ガアルカドウカ、ト云フ點  
ヲ御伺ヒ致シマス

リト認ムルトキハ漁業會ニ對シ必要ナル事項ヲ命スル」ト云フコトモ考ヘテ居ルノデアリマス、尙ホ具體的ナ措置ト致シマシテハ、從來ノ中央水產業會ニ成ベク團體トシテノ所謂全漁聯茲ニ帝國水產會等ノ施設ニ對シマシテ、色々助成或ハ指道等モシテ參ツタノデアリマスガ、ソレ等ノ施設モ此ノ中央水產業會ニハ繼承シテ貰フ積リデ考ヘテ居リマス、特ニ最近時局ノ進展ニ伴ヒマシテ、色々ト從前ノ團體ニ於キマシテモ、仕事ヲシテ貰フ分野ガ殖エテ參ツテ居リマスガ、ソレ等モ總テ擴充シテ中央水產業會ニ繼承サルベキモノト考ヘテ居リマス○井野國務大臣、大體仕事ノ内容ハ今申上ゲマシタガ、西川君ノ御質問ノ趣意ハ、遠洋漁業ノ方ノ團體ハ國家ニ色々面倒ヲ見テ仕事ヲヤリ易クスル、沿岸漁業ノ方ハ何モノ面倒ヲ見ナイデヤナイカト云フ御氣持カラノ御質問ト思フノデアリマス、遠洋ノ方ノ仕事ハ大體各下部ニ海洋漁業ヲ持チ、其ノ上部ニ於テ物資ノ一元配給、及ビ漁獲物ノ一元配給ヲ致ス所謂株式會社ニアル、ソレダケノ仕事ヲシマスニハ相當ノ資產モ要リ、又色々ノ施設モ要ルノデアリマスカラ、各海洋漁業會社ガ出資スル資産ヲ以テ一ツノ株式會社ヲ作りマシテ、サウンテ事業會社トシテ仕事ヲ營ムト云フノデアリマスカラ、配當ノ保證等モ政府ニ致シテ、サウシテ國家的ニ之ヲ守上ゲテ行カウト云フノデアリマスガ、株式會社ノ方ハ營業デアリマスカラ、營業稅モ取ラレル譯デアリマスガ、此方

ハサウ云ツタヤウナ所謂營業ヲスルノデハ  
ナイノデアリマスカラ、稅ノ免除モアルト  
ニ對スル國家ノ色々ノ助成ガ、產業組合關係ノ全購聯、全販聯ニ對スル扱ヒ方ト違フ  
ト同ジヤウナ意味ノ達ヒガアルノデアリ  
マシテ、其ノ爲ニ國家ガ遠洋ニ厚ク、沿岸  
ニ薄イト云フコトハナイモノト御承知ヲ願  
ヒタイ

○西川委員 私ハ兩者ヲ對比シマシテ、國家トシテノ手當ノ厚薄ヲ論ズル積リデハゴ  
ザイマセヌ、併シ此ノ團體ヲシテ眞ニ戰時  
下ニ於ケル水產總動員體制ノ確立、其ノ運  
營ニ必要ナル施設ヲサセヨウト思ヒマスナ  
ラバ、例へバ其ノ生産物販賣ノ統制ヲ強化  
シ、販賣ヲスルニ致シマシテモ色々ノ危險  
モ見込マネバナラニ點モアルデゴザイマセ  
ウ、ソコデ配當ノ補給ト云フ必要ハ御説ノ  
通りゴザイマセヌケレドモ、併シナガラ相  
當國家目的ニ即應シテ事業ヲシテ、損失ヲ  
見タ時ニハ國家ガ相當補給ヲシテヤル、或  
ハ色々見テオヤリニナツテ、相當積極的ニ  
此ノ團體ヲシテ活動セシメラレルト云フコ  
トガ必要デアラウト思ヒマス、此ノ點ハ一  
御答辯ノ趣旨ヲ諒承致シマシテ、更ニ私  
ノ希望トシテ御願ヒ申上ゲテ置キマス  
次ニモウ一つ御尋ネ致シマスガ、水產統  
制令ニ依リマスト、水產業船舶其ノ他水產  
事業設備ノ貸付、或ヘ製氷冷藏及ビ冷凍事  
業ト云フヤウナコトガ、其ノ事業トシテ掲  
ゲラレテ居ルノデゴザイマシテ、サウ云フ  
テ居ル船舶其ノ他ノ施設ヲ、或ハ國ガ徵

用シテ帝水ニ貸付ケテ、帝水ヲシテ更ニ再  
貸付ヲサセテ運用セシメルト云フヤウナコ  
トガ當然行ハレルダラウト思ヒマス、サウ  
云フ場合ニハ水產統制令ニ依ツテ帝水ヲシ  
テ船舶施設其ノ他ノモノヲ動カセル對象ハ、  
海洋漁業ニ屬スルモノニ限ルノカドウカ、所  
謂沿岸漁業ト云フ部類ノ中ニアル船舶トカ、  
或ハ製水設備、冷藏事業等ハ、現在製水設  
備デモ沿岸漁業者ノ利用シテ居ルモノガ澤  
山アルノデアリマス、例ヘバ現ニ海洋漁業  
會社ノ經營シテ居リマスル製水設備其ノ他  
ニモ、沿岸漁業者ガ利用シテ居ルモノモ相  
當多イノデアリマスルガ、サウ云フモノニ  
モ及ブノカドウデアルカト云フ點ヲ一ツ明  
カニシテ置イテ戴キタイト思ヒマス

○寺田政府委員 帝國水產統制株式會社ノ  
規定ハ水產統制令ニ規定サレテ居ルノデア  
リマスガ、其ノ水產業ト云フモノハ、勅令  
ノ第一條ノ第二項デ命令ヲ以テ定メルコト  
ニナツテ居リマス、即チ母船式漁業其ノ他  
十一種類バカリノ業務ヲ指定サレテ居ルノ  
デアリマスガ、是ガ水產業ト云フコトニナ  
ルノデアリマス、隨ヒマンテ一應現在ノ建  
前ト致シマシテハ帝國水產統制株式會社ノ  
事業ハ、水產業ニ關スル仕事ト云フノハ勅  
令ニ基ク規則デ規定サレテ居リマス水產業  
ト云フコトニナラウト思ヒマス

○西川委員 ソレデハ沿岸漁業ニ屬スルモ  
ノハ及バナイ、斯様ニ解シテ宜シイ譯デゴ  
ザイマスカ

○寺田政府委員 今ノ水產業ト申シマスノ  
ハ勅令ニ基ク規則デ規定サレテ居リマスモ  
ノデ、是ハ沿岸漁業ト海洋漁業ト云フ風ニ  
明確ニ區別シテアルノデハアリマセヌ、漁  
業ノ種類ヲ擧ゲマシテ規定シテ居ルノデア  
リマスカラ、所謂沿岸漁業、海洋漁業ノ觀念  
カラ致シマスト、兩者ニ跨ガルヤウナ種類  
ノモノモ必ズシモナイデハアリマセヌ、其  
ノ意味ニ於キマシテハ、帝國水產統制會社  
モ必ズシモ海洋漁業ノミニ付テ行フトハ限  
ラナイノデアリマス

コトヲ船員ニ命ジマシテモ、實際ハ魚ヲ追掛ケル時ニへ歩合制度デヤツテ居リマスコトヘ、大臣能ク御承知ノ通りデゴザイマス、シテハ、先刻モ御話が出テ居ルノデゴザイマスルガ、昨年來鰯ハ公定價格ガ遙カニ生産費ヲ割ツテ居ル、昭和十七年十一月二十五日ニ下關市ノ鮮魚介出荷統制組合ノ關壯二氏カラ食品局長田中啓一氏ニ向ツテ陳情書ガ出テ居ル、之ニ依リマスルト、鰯ハ朝鮮ノ鰯デアツテモ長崎方面ノ鰯デアリマシテモ、現在ノ公定價格ヨリモ二圓程度生産費ノ方ガ高イ、是デハ生産ガ出來マセヌト云フ陳情書ガチャントアナタノ所ニ出テ居ル、是ハ御覽ニナツタニ違ヒナイ、ソレニ今以テ鱸ノ價格ハ改訂サレナイ、ドウシテ改訂サレナイマスカラ、實情ノ調査ヲシテ居ルト水產局長ガ先刻仰シャイマシタケレドモ、十一月二十五日ニ陳情書ガ出テ居ルノデゴザイマスカラ、サウ實情ノ調査ガ暇取ツテハ非常ニ困ル、サウシテ是ハ戰時下、特ニ今年ハ決戰デアル、此ノ年ニ於テ決戰シヨウト云フ大事ナ年ニ、鰯ノ値段ガ明カニ生産費ヲ割ツテ居ル、ソレハ陳情書ノ内容ハ違フ、吾々ノ見ル所デハ現在ノ鰯ハ生産費ハ割ツテ居ナイト云フ御見解ナラバソレデ宜シイ、併シナガラ私共之ヲ検討シテ見マスルノニ、是ハ信ズベキ資料ダト私ハ思フ、農林省ト致シマシテハ直接ニモ御調べニナツテ居ルニ違ヒナイ、ソレガ昨年ノ鰯ノ漁ハアリマセヌ、凡ユル方面ニ問題ニナツテ

居ルノガ、今日ニナツテマダ解消サレテ居  
ラナイ、水産局長ハ將來考ヘルト仰シヤイ  
マスケレドモ、今カラ考ヘテ居ツタラ、今  
年ノ鱸ノ漁期ハモウ過ギテ居リマス、何時  
間ニ合フカ分ラナイ、斯ウ云フコトハモウ  
少シ迅速ニオヤリニナルベキデハナイカ、  
如何ニ價格ノ問題ガ不合理ナコトニナツテ  
居ルカト申シマスルト、「イカナゴ」ト云フ魚  
ガアル、食品局長モ御存知アリマセウ、  
是ハ煮テモ焼イテモ食ヘヌモノデアル、ダ  
カラ公定價格ノ定メガナイ、ソシナモノハ  
誰モ食ヒハシナイ、所ガ從來ノ魚ノ豊富ナ  
時ニハ煮テモ焼イテモ食ヘヌモノデアツタ  
ガ、此ノ頃ハ「イカナゴ」テモ食ヒタイト云フ  
人間ガ多クナリマシテ、段々市價ガ上ツテ  
來テ、此ノ煮テモ焼イテモ食ヘヌモノガ此  
頃十貫目三十二圓シテ居ル、サウシテ榮養  
分ノ豊富ナ鱸ハ消費地ノ最高價格ガ僅カニ  
七圓四十錢デアル、斯ウ云フ時代ニ於テハ  
鯛ヨリ鱸ノ方ガ尊イ、其ノ尊イ鱸ハ十貫目  
七圓四十錢デアル、是デハ生産費ヲ割ツテ  
ドウニモナリマセヌト言ウテ陳情シテモ、  
鱸ノ漁期ノ初メ頃ニ陳情シタモノガ、鱸ノ  
漁期ガ終ツテモマダ解決サレテ居ラナイ、  
煮テモ焼イテモ食ヘヌ「イカナゴ」ガ三十二圓デ  
市場ヲ横行シテ居ルト云フヤウナコトニナ  
ツタノデハ、萬策施シテモウ萬策盡キタノ  
ツテ貰ヒタ、物價ノ決定ニハ専門委員ト  
カ色々アリマシテ、サウ云フ手續ハ非常ニ  
多々アル、努力ニ依ツテ克服スベキ所ハ  
ヤカマシイカト思ヒマスガ、此ノ魚ノ値段  
ノ如キハ、先刻水產局長モ言ヘレタヤウニ  
其ノ土地、其ノ狀況ニ依ツテ漁獲ノ狀況ハ

刻違フノデス、ダカラ迅速ニ二日デモ三日  
デモノ内ニ直ニ手ガ打テルヤウナ迅速ナル  
機構ヲ確立サレテ、迅速ニ手ヲオ打チニ  
タ時ニハ、其ノ状況ハ變化シテ間ニ合ハナ  
御考ヘヲ御伺ヒシ、同時ニ斷乎トシテ迅速  
ニ措置サレルヤウニ希望致シマス

○井野國務大臣 水産増産ノ問題ニ付キマ  
シテハ、農林省トシマシテモ、マダ打ツ手  
ハ澤山アルデアラウト思ヒマスノデ、是カ  
ラ先モ色々努力シテ行キタイト思ヒマス、  
昨年ノ如キモ、重油ヲ陸海軍カラ特配ヲ受  
ケマシタグケデモ相當増産ニナツテ居リマス、  
色々凡ユル方面ニ努力ヲシテ参ラナケレバ  
ナラスト思ヒマスガ、只今御話ノ價格ノ問  
題ニ付キマシテハ、西川君ノ御意見ヲソレ  
ダケ伺ツテ見マスト、非常ニ御尤モノヤウ  
ニ聞エルノデアリマスガ、私ニ言ハセント  
多少違ツタ觀點モアルノデアリマス、ト云  
フノハ、鯛ヤ鱈ヲ獲ラナイデ鱈ヲ獲レバ宜  
イ、斯ウ言ハレマスケレドモ、鯛ヤ鱈ヘ所  
謂底魚漁業デアル、鱈ヤ鯖ヘ浮游漁業  
トカ、鯛トカ、或ハ鮓トカ云フヤウナモノ  
デ、殊ニ鯛ト申マシテモ、連子鯛ナドハ  
物茱萸デス、決シテ刺身ニナル立派ナ鯛バ  
カリガ鯛デナク、底曳デ獲ル鯛ヘ隨分物茱萸  
ノ鯛モアル、ダカラサウ云フモノハ獲ラナイ  
デ、鱈ダケヲ獲ルコトモ出來マセヌノデ、  
ヤハリドウシテモ機船底曳網デ獲ルノハ鱈  
上ヲ浮ク魚ヲ獲ル漁業デスカラ、同ジ漁師  
ニソレヲヤレト云ツテモノレハ出來ナイ、  
ヤハリドウシテモ機船底曳網デ獲ルノハ鱈  
トカ、鯛トカ、或ハ鮓トカ云フヤウナモノ  
デ、殊ニ鯛ト申マシテモ、連子鯛ナドハ

合モアル、鰐其ノ回游魚ガカラ季節的ニ獲レヌ場所  
ガ決マツテ居リマスカラ、其處へ行ケバ必  
ズ居リマシテ、漁獲ノ上ニ於テモ非常ニ安全  
性ガアル、サウ云フ風デ兩方相俟ツテ行カ  
ナケレバナラヌソコデ値段ノ問題ニ入ルノ  
デアリマスガ、鰐ヤ鯖ト云フヤウナ國民ノ生  
活必需品、大衆同魚類ノ價格ト云フモノハ、  
國民ノ必需品トシテ餘リ上ゲナイト云フ政  
府ノ從來カラノ方針デアツテ、少シ贅澤ナ  
モノハ値段ガ高クナツテモ大シタ影響ハア  
リマセヌガ、斯ウ云ツタ國民ノ本當ノ生活  
必需品ニ充テルモノハ、無暗ニ動カサスト  
云フ方針デ抑ヘラテ來マンシタカラ、他ノ  
モノカラ見マスト非常ニ不利デアリマス、  
併シ農林省トシテハ、不利デアツテモ漁業  
者ニ之ヲ獲レト云フコトハ忍ビナイノデア  
リマスカラ、數次ニ瓦ツテ改訂ハシテ來テ  
居リマス、鰐ノ如キモ昨年秋デアツタト思  
ヒマスガ、改訂致シマシタ、併シ今日尚ホ  
サウ云ツタ陳情書カラ見マシテ、安イ部面  
モアルト思ヒマスガ、全體的ニ見テ三陸ノ  
鰐或ハ最近ノ東京灣デ獲レタ鰐ハ、私ハサ  
ウ採算ガ取レナイモノデハナイト思ツテ居  
リマス、併シ出來ルダケ有利ニ考ヘテ、增  
産ニ努メテ行クコトハ當然デアリマスカラ、  
サウ云フ點ニ付テハ今後十分考慮シテ參り  
マスルガ、兎モ角國民ノ生活必需品ノ物價  
ヘテ行カナケレバナラヌ點ガアツテ、吾々ト  
ヲドンヽヽ上ゲラレナイ事情ガアリマシテ、  
簡易ニ上ゲル譯ニハ行カナイ、サウ云フ物  
ヲ上ゲルニハヤヘリ全體ノ物價政策カラ考  
ヘテ行カナケレバナラヌ點ガアツテ、吾々ト  
シテモヤリニクイ問題ナノデアリマス、勿  
論農林省トシテモ、今後サウ云フ點ニ付テ  
十分注意ハ致シテ行キマスケレドモ、サウ

云フ事情ノアルコトモツ御含ミノ上色々

スト、私ガ甚ダ實情ニ即シナコトヲ言ツ

御注意ヲ戴キタイト思ヒマス

○西川委員 大臣ノ御答ヘヲ聽イテ居リマ

私ハ鯛ヤ鱸ト鱸ヲ一緒ニハ申シテ居ナイ、

三陸ノ鱸ヤ東京灣ノ鱸ハドウニカ引合ツテ

鱸ハ別デス、鯛ノ網デ鱸ヲ引張ツテ來ル譯

ニハ行キマセヌ、併シナガラ此ノ鱸モ成程

三陸ノ鱸ヤ東京灣ノ鱸ハドウニカ引合ツテ

居ルカモ知レマセヌガ、併シ三陸ノ鱸ヤ東

京灣ノ鱸ガ全部デハナイノデアリマシテ、

朝鮮ノ鱸ノ如キハ生產費ヲ割ツテ居ルト云

圓モ高イ、朝鮮デ賣ツタ方ガ五圓モ高ク賣レ

ルカラ、ソレヲワザ／＼運賃ヲ掛ケテコツ

チニハ持ツテ來ナイ、併シナガラ朝鮮モ米ガ

不足デアルカラ、朝鮮デ大イニ鱸ヲ賣ツテ

吳レテモ宜イト云フコトニナルデアリマセ

ウガ、他ノ事情モアツテ、朝鮮ノ近海デ獲

レタ鱸ヲ朝鮮デハ搬出ヲ禁止シマシタカラ

朝鮮トノ價格ノ比較ハ問題ニナラヌノデ

設ヲ止メマス、施設ノ足ラザル時デアルカ

アリマスクレドモ、今ノ如ク鱸ヲ獲ツテモ、

ニ營利ノ目的ヲ持ツテ居ル譯デハアリマセ

ヌノデ、損ヲシテモ國家ノ爲ナラバ獲ルベ

キデアリマスクレドモ、損ヲシテ居タノデ

ハ金融モ行詰ルシ、其ノ企業自體ガ滅ビナ

ケレバナラヌコトニナリマスカラ、損ヲシ

テハ鱸ハ獲レナイ、要スルニ同ジ機船底曳

網ナドデ引掛けテ來ル魚ノ中デモ、鯛ヤ何

カノ高級品ト比較シテ、大衆魚ト云ハレテ

居ル鰐ガ、其ノ收入ガ十分ノ一位ニシカナ

ラヌヤウナコトデハ、ヤハリ鰐ヲ獲ラヌデ

鯷ノ方ヲ獲リタガル、ソレカラ又鱸ヤ鱈、

鱈等ニ於テモ、ヤハリ此ノ際價格ヲ見テヤラ

ナイト、斯カル漁業ガ段々衰退スル、滅ビ

ルトマデハ極言シマセヌケレドモ衰退スル、

俄カニ魚群ガ來テモ、價格ガ引合ハヌト

直チニゾレヲ獲ラウト云フコトニナラヌノ

デアリマスカラ、ドウカ其ノ點ニ付テハ水產

ノコトニハ十分ナル御認識ヲ持ツテ居ラレ

マスル大臣ノコトデゴザイマスカラ、十分

ニ御注意下サルト共ニ、ドウゾ局長以下一

層ノ御努力ヲ御願ヒシタイト思ヒマス

ソレカラ燃料ノ點ニ付テハ色々御努力ヲ

戴イテ居ルコトト思ヒマス、燃料事情ハ私

共他ノ委員會ノ祕密會等ニ於テモ承リマ

シテ、大體了承ヲ致シテ居リマスルガ、先

刻水產局長ハ資材ガ減ツテ居ル割合ニハ漁

獲ガ減ツテ居ラナイ、是ハ全國ノ漁業者ニ

對シテ大イニ敬意ヲ表スルト云フ御言葉デ

アツテ、其ノ點確カニアルト思ヒマスガ、

其ノ一つノ理由ト致シマシテハ、業者ガ非

常ニ工夫研究ヲ致シマシテ、代用燃料ヲ使

用シテ居ル、其ノ主タルモノハ「クレオソ

ト」ト「コールタール」、是等ノ類ハ從來燃

料ニ使ハレタノデハナイノデアリマシテ、

之ヲ燃料ニ使フマデニハ、ヤハリ大キナ

業者ノ苦心ガアツタ、實ハ是等ノ代用燃

料ニ依ツテ現在ノ生產ヲ維持シテ居ルノ

デアルガ、近ク是ガ更ニ統制サレマシテ

重要ナ部分ヲ占メテ居ルノデゴザイマス、

ソレデ私共ト致シマシシテモ之ヲ使ヘナイカ

ト云フコトハ、非常ニ大切ナ問題ダト思ヒ

相談ヲ進メテ居リマス、ソレカラ其ノ他ノ

題デハアリマセス、今日ハ業者ガ立ツトカ

立タヌトカ云フ問題デヤナクシテ、一般ノ

國民ト致シマシテ、臺所元ガ由々シキコト

ニナツテ來ルト思フノデアリマスガ、燃料

事情ヲ聞イテ見マシテモ、今年ハ瀬戸デア

ル、此ノ瀬戸ヲ越シタナラバ液體燃料ノ前

途ニハ相當ノ光明ガアルノデアリマシテ、

「クレオソート」「コールタール」ヲ、セメテ今

年ダケデモ代用燃料トシテ使ハセル譯ニ行

カナイカドウカ、其ノ點ハ水產局長、徹底

シテ燃料局長ト折衝サレマシタカドウカ、

ドウシテモ已ムヲ得ザル事情ガアルノカ、

何トカシテ今年ダケデモ之ヲ代用燃料トン

テ使ハセル譯ニ行カナイカ、若シ是ガ使ハ

レナイト云フコトニナリマスルナラバ、生

産ノ上ニ相當ノ影響ヲ來ス虞ガアルノデア

リマスガ、是等ハ食品局長トシテ、現狀ニ

シテ御行キニナリマスカ、何カ代用燃料ガ

使ヘナクナツテ生產が減ル、其ノ代リ斯ウ

云フ手ヲ打ツノダト云フヤウナコトニ付テ、

水產局トノ間ニ話合ヒノ上、何カ具體的方策

ヲ持ツテ居ラレルカドウカ、其ノ點ヲ一ツ

伺ヒタイ

燃料對策ト致シマシテモ色々考ヘテ居リ

シテ、例ヘバ昨年ノ脂肪酸「エステル」問題

ニシテモ極力研究ヲ致シマシテ、此ノ増配

モ出來レバ宜イト云フコトデ努メテ居ルノ

デアリマスケレドモ、是亦思フヤウナ生産

ヲ得ラレマセヌデシタ、其ノ他燃料ノ供給

ト考ヘテ居リマスガ、マダ是ト云フ實績ヲ

申上ゲルマデニ至ツテ居リマセヌガ、今色

ヲ潤澤ナラシメルコトニ付キマシテハ色々

此ノ點ハ氣ヲ付ケテ參リタイト思ヒマス

○田中(啓)政府委員 水產局トハ極メテ緊

密ニ連絡ヲ執リマシテ、常ニ對策ヲ怠ラヌ

ト考ヘテ居リマスガ、現在モウ既ニ

ヤウニ努メテ居ルノデアリマス、殊ニ油等

ノ不足ニ依リマシテ、水產ノ漁獲高ガ減ツ

タ場合ニハ、如何ナル措置ヲ講ズル積リカ

カ入ツテ居ラヌ譯デアリマス、デアリマス

カラ色々ト苦慮シテ居ルノデアリマスガ、

東京ノ如キ

相當減ツテ居ルノデアリマス、是ハ生ノ

ハ平素ノ入荷量ニ比ベマスト、大體半額シ

スシ、尙ホ鱸ノ加工品モ同様デゴザイマ

ス、ソレカ其ノ他是方從來肥料、其ノ他食

用ニナツテ居ナイ部分ガ相當ゴザイマスノ

デ、之ヲ食用化スルト云フ方面ニ急速ニ進

メテ行キタイト考ヘテ居リマス

○西川委員 鮑ノ食用化ト云フ點ニ非常ニ

着目シテ居ラレマスコトハ極メテ妥當ナコ

トデアルト思ヒマス、ソレニ付ケマシテ

モ、其ノ鮑ガ成ベク澤山獲レルヤウニ、價

格政策其ノ他ニ付テ迅速ニ御考ヘヲ願ヒタ

大衆食料品ハ成ベク價格ヲ上ガタクナイト  
云フ御意向ハ了承スルノデアリススガ、此  
ノ價格ガ安イコトハ洵ニ有難イコトデス  
ガ、其ノ爲ニ生産ガ減ル、手ニ入ラヌト云  
フコトニナルト、何カヲ食べナクチヤナリ  
マセヌカラ、之ニ代ル何カヲ入手センガ爲  
ニ非常ニ苦勞ガ多クナリ、又費用モ多クナ  
リマンテ生活ニ赤字ガ出テ來ルト云フヤウ  
ナコトニナルノデアリマス、私意外ニ感ジ  
マシタコトハ各工場、鑛山等ヲ訪問シテ第  
一ニ私共ガ質問ヲ受ケルノハ、ナゼ米ノ値  
段ヲ上げナイノデスカト云フコトデス、ナ  
ゼサウ云フ質問ガ起ルカト云フト、米ノ値  
段ヲ上げレバ生産ノ増加ガ出來ルノダト云  
フ風ニ解釋シテ、米ノ値段ガ一升五錢、十錢  
高イト云フコトメガ少クテ困ルト云フコ  
トトヲ比較シテ、少々高クテモ米ガ多ケレバ  
宜イノダト言ノデス、私共ハソレニ對シ  
テ、價格ヲ上ゲルコト自體ニ依ツテ的確ニ  
生産ガ増加スルト云フコトナラ別ダガ、其  
ノ點ハ大イニ研究スル餘地ガアルダラウト  
云フコトヲ説明シテ居リマスガ、彼等ハサ  
ウ言フノデス、況んヤ鱸ノ如キ、是ガ百匁  
ニ付テ三錢ヤ五錢上ラウガドウシヨウガ、  
上ゲテ水產ガ殖エルナラバ生活費ハ安クナ  
ル、鱸ノヤウナ安クテ旨イ魚ガ澤山入ツテ  
來レバ生活費ハ安クナル、現在ノ價格ノ儘  
デハ鱸漁業ト云フモノハ不可能ニナツテ來  
ルノデアリマスカラ、此ノ點ハ一錢トカ五  
厘ノコトヲ——百匁一錢安クナレバ生活ガ  
樂ダトカ何トカソシナ末梢的ナコトヲ考ヘ  
ソレカラ又鱸ノ食用化ト云ヒマスケレドモ、

鮨ヲ現在食品以外ニ潰シテ居ルモノモ少ク  
ナイト思ヒマス、是ハ私此ノ委員會ニ持ツ  
テ出ル積リデヘアリマセヌデシタガ、是ハ  
鱸ノ魚粉デス、是ハ頭カラ骨マデ粉ニシタ  
モノデ、味噌汁ノ中ニ入レテモ宜シ、御  
飯ノ上ニ振掛ケテモ宜シイ、之ヲ陸軍ノ方  
ヘ持ツテ行ツテ吳レト云フコトヲ賴マレタ  
ノデスガ、斯ウ云フモノニ着目サレルト、  
ソレハ榮養分ニ於テ相當量ノ増加ニナルト  
思ヒマス、是等ノ施設其ノ他ノ問題モアリ  
マセウガ、併シ食品局トシテハ水產局ト十  
分緊密ナ連絡ヲ取ツテ、水產ヲ増加シテ貰  
フヤウニ御努力下サルト同時ニ、今マデ食  
用ニシナカツタ部分、廢棄サレテ居ツタ部  
分ヲ食用化スルト云フヤウナ點ニ着目シテ  
戴キタインデアリマス、特ニ斯ウ云フ風ニ  
海洋漁業ニ於テ一つノ機構ガ整備シ、ソレ  
カラ沿岸漁業ニ於テモ斯ウ云フ團體等ガ出  
來テ、是等ヲ積極的ニ勵カセルコトニナル  
ナラバ、成ベク漁獲物ヲ陸揚地ニ於テ處理  
シテ、其ノ餚トカ、頭トカ、腸トカ云フヤウナモ  
ノハ、或ヘ魚粉ニシテ食用化スベキモノハ食  
用化スル、尙サウ云フモノデ油モ採ル、或  
ハ肥料モ必要ナノデアリマスカラ、肥料ニ  
スルト云フヤウニ、多少着眼點ヲ變ヘテ、  
所謂總理ノ言ハレルヤウニ頭ヲ戰時のニ切  
換ヘテ一ツ食品ノ御世話ヲシテ戴キタイト  
思フノデゴザイマス、此ノ點ハ私切ニ希望  
シテ置キマス

最後ニモウ一ツ希望ヲ致シタインデゴザ  
イマスルガ、水產生産力ノ確保增强ノ爲ニ  
ハ色々ト新シイ手ヲ打ツテ戴キ、色々積極  
的ニヤツ、テ戴カナクチヤナラヌ部面ガ非常  
ニ多イ、同時ニサウ云フ事柄ヲナサレル上  
ニ非常ニ慎重デナクテハテラヌ面モアルト

思フノデアリマス、先般モ行政機構ノ問題ニ付キマシテ總理ハ徒ラニ機構イデリヲ致スコトハ此ノ際避ケタイ、斯ウ云フ御話デアツタノデゴザイマシテ、大臣ガ機構イデリヲスルコトガ必ズシモ行政能率ノ向上デナイト御考ヘニナツテ居リマスルコトト私ノ考ヘテ居ル點方合致スルカドウカ存ジマセヌガ、私モ亦總テノ經營ニ於テ機構イデリヲスルコトガ決シテ生産ノ増強ニナラスト云フコトヲ感ズルノデアリマス、私最近熟ニサウ思フノデアリマスガ、從來能クオ互ヒニ知リ合ツタ同志ノ間デハ其ノ人間ノ性格ガ分ツテ居ル、アレニハアア云フ癖ガアルハ違フノダト云フヤウニ、人ノ言フコトガ直グ信用出來ル、割引シテ聽クベキモノハチヤント決マツテ居ルノデアルカラ、凡ソスウ云フコトヲ言ツタラ斯ウ云フ風ニ聽ケバ宜イト云フヤウニナル、所ガ新シイ人ガ集マツテ一ツノ集團ヲ形成致シマスト、當分其ノ癖ヲ知リ盡スマデハ皆ノ言フコトヲ一々警戒シテ掛ラナケレバナラヌ、慣レタ者同志ナラバ、オイト言ヘバ直グ話合ヒガ付クモノヲ、徒ラニ議論シ合ツテ理窟ヲ捏ネ合ツテ相當時日ガ延ビルト云フコトガ非常ニアル、國策會社等ガ色々非難サレマスルガ、其ノ能率ノ擧ラナイ、業績ノ擧ラナイ原因ノ一つハ、色々ナ方面ノ寄合世帶デオ互ニ知ラナイ、十分ニ腹ヲ打割ツテ話レゾレ連絡ガアツテ派閥ト云フ程ノモノデゴナイニシテモ、渾然一體ヲナシテ一ツ仕事ヲシテ行クト云フコトガ中々困難ナノデゴ色々ヤハリ人間ノ社會關係モアリマス、ソザイマシテ、是ハドウモ人間社會ノ通例、

タ帝國水產統制株式會社法案ニ於キマシテモ、ヤハリ是ガ生レタカラニハ何處マデモ之ヲ守リ立テテ立派ナモノニシテ行カナクチヤナラヌト云フ點ニ付テハ、私共決シテ人後ニ落チル者デハナイノデゴザイマスケレドモ、併シナガラ急速ニ仕事ヲシテ行クト云フ上ニハ色々困難モ伴フデアラウト思フノデゴザイマスガ、特ニ私方此ノ定款等ヲ貴ヒマシテ讀ンデ見マスルノニ、此ノ中ニ掲ガラレテ居リマス所ノ事業其ノモノニハ相當慎重ニナサラナクテハナラニ點ガ多モアルト思フノデアリマス、例ヘバ水產業運營會ノ如ク、船主カラ一時徵用デモナスツテ、サウシテ之ヲ帝水ニ貸シテ、帝水ガ之ヲ運營スルト云フコヨニナリマスト、普通ノ船舶等ノ件デゴザイマスガ、之ヲ若シ政府ガ只今海軍方面デヤツテ居リマス船舶運營會ノ如ク、船主カラ一時徵用デモナスモアレバ、短所モアルノデゴザイマスガ、特ニ漁船ハ單ニ甲地カラ乙地ニ物ヲ運ブト云フダケデナシニ、向フデ漁撈ヲシナケレバナラヌノデゴザイマスカラ、ヤハリ其ノ船主ナリ、業主ナルモノノ人的ナ繫リガ可ナリ強クモノヲ言ツテ居ル、此ノ人的ナ繫リガ徒ラニ遮断サレ、徒ラニ結付キガ變ツテ來ルト云フコトハ、其ノ人心ニ與ヘマスル色々ノ影響特ニ漁業者ノ如キハ海上生活ヲシテ居リマシテ、單純ナル性格ヲ持ツテ居リマス、其ノ中心人物トノ關係ニ付テノ心理的ナ影響ハ非常ニ大キイノデゴザイマシテ、斯クノ如キハ相當慎重ニ御考慮ニナル必要ガアルト思フノデゴザイマス、ソレカラ先刻モ私其ノ點ヲ明カニシテ置キタカツタノデアリマスガ、製水、冷凍及び冷藏

事業ノ如キモ、是ハ沿岸漁業ノ面カラ申シマスト、全國ニ於ケル是等ノ施設ノ中ニモ沿岸漁業者ガ利用シテ居ルモノモ相當部分アルノデアリマシテ、其ノ事業其ノモノニ參畫シテ居ラナイ所ノ帝水ニ依ツテソレガ一元的ニ運營サレルト云フコトニナリマスト、沿岸漁業者ト致シマシテ、色々ノ問題モ起ツテ來ヨウカト思フノデゴザイマス、又海洋漁業者自體ト致シマシテモ、製冰事業ノ如キハ全ク漁撈其ノモノニ附隨シタ事業デアツテ、自分ガ其ノモノヲ經營シテ居ラナイト積込ミ、其ノ他ノ點ガ思フヤウニ行カナイ、漁撈能率ノ上ニ多大ノ影響ヲ來スト云フヤウナ點ガ多々アルノデアリマス、ソコデ海洋漁業自體ノ點カラ見マシテモ、是等ノ事業ニ付テハ相當慎重ニ御考慮ニナル必需要ガアルト思ヒマスルシ、又會社自體ト致シマシテモ、帝國水產統制會社自體ノ將來ノ經營ノ上ニモ、製冰事業等ヲ全部自分ガ引受ケテ行クト云フコトニ付テハ、多々問題ガアルト思ヒマス、是等ノ點ハ只今色々御苦心御研究中デアルト思ヒマスカラ、敢テ此ノ場合ハツキリシタ御答辯ヲ要求スル次第デハゴザイマセヌガ、是ハ私モ色々研究シ考ヘマシテ、斯ウ云フヤウナ點ハ相當慎重ニ御考慮ニナル必要ガアルト存ジマスノデ、其ノ點特ニ希望シテ置キマス

最後ニ私ハ極メテ事務的ノ點デ一、二點程御伺ヒマシテ私ノ質問ヲ打切りタイト思ヒマスガ、特別漁業會デアリマス、是ハドウ云フ風ナモノヲ御認メニナルノデアルカ、例ヘバ牡蠣トカ、海苔ノ養殖トカ云フヤウナモノハ特別漁業會トシテ御認メニナルノデアルカ、ソレカラ是等ノ特別漁業會ノ全國的ナ區域トル特別漁業會ヲ御認メニナルノデアル

カドウカ、其ノ點ニ付テ御尋ね致シマス  
○寺田政府委員 特別漁業會ハ全國區域ノモノモ認メルコトニナツテ居リマス、ソレカラ御話ノ牡蠣等ノ漁業ニ付キマシテハ、是ハ其ノ地方ノ實情、或ハ其ノ業態ノ實情ト云フモノカラ見マシテ、必要ガアレバ是モ特別漁業會ノ組織ヲ認メテ行ク積リデアリマス、但シ全國ノ區域ニシタガ宜イカドウカニ付キマシテハ、是ハ其ノ業界ヲ能ク見マシテ、緩和シタイト思ツテ居リマス  
○西川委員 私御尋ネシタイ點ハ多々ゴザイマスガ、時間ノ關係モアリマスノデ、之ヲ以テ打ち切ルコトニ致シマス  
○東鄉委員長 本日ハ是ニテ散會致シマス、明日ハ午前十時カラ開會致シマス

午後五時二十一分散會

衆議院農業團體法案外一件委員會議錄第五回中正誤

	頁	段	行	誤	正
四〇	三九	三六	一	體力	體力
四一	三八	六	九	材料	體力
二	二九	二	九	何レ入ツテモ	體力
二一	三〇	ニ	ニモニハ入ラ	何レニ入ツテモ	體力
一	末	ニ	ニモ入レル	ニモニハ入ラ	體力
	土地ノナイ				體力
	千圓未滿				體力
	今日ハ				體力
	又政府				體力
子サヘ	色々ナ利補				體力
	又其ノ半額ハ				體力
	アル權災補助				體力
	ノ資金ノ如キモ				體力

昭和十八年二月十六日印刷

昭和十八年二月十七日發行

衆議院事務局

印刷者  
内閣印刷局